

# 太田市公共交通に対する市民アンケート

## 調査結果報告書

令和4年3月

太田市市民生活部交通対策課

## 目 次

1	調査概要	P 2
2	回答者の属性	P 3、4
3	調査結果	
(1)	自家用車等の使用環境について	P 5、6
(2)	日常生活の移動実態について	P 6～10
(3)	バスの認知度について	P 10、11
(4)	バスの利用について	P 11～20
(5)	外出しない、外出できない方について	P 20
(6)	公共交通に対する満足度について	P 20、21
(7)	バスで行きたい施設について	P 21
(8)	公共交通の社会的な機能や役割について	P 21～24
(9)	交通に関する考え方について	P 25～26
(10)	今後の公共交通について	P 26～29
(11)	公共交通に対する考えやアイデアについて<自由意見>	P 29～31

## 1 調査の概要

### (1) 調査目的

本調査は、市民の移動手段の実態や公共交通の認知度及び利用状況を把握し、今後の公共交通施策の基礎資料とするため実施したものです。

### (2) 調査対象及び調査方法

調査の対象：市内在住の15歳以上85歳未満の市民

配布数：2,000部

抽出法：無作為抽出により対象者を選出

同一世帯を除く

R3市民満足度アンケート調査抽出者を除く

地域ごと男女ごとに決められた人数を抽出

調査方法：郵送配布、郵送回収方式

調査期間：配布日：令和3年11月10日（水）

回収期限：令和3年12月17日（金）

### (3) 回収状況

回収数：926件

回収率：46.3%

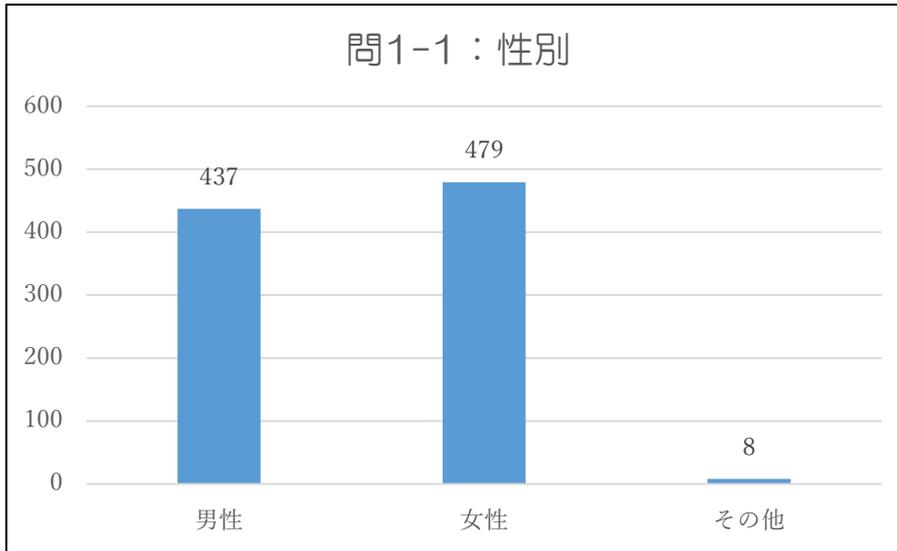
居住地区	配付(部)	回収(部)	回収率(%)
全体	2,000	926	46.3
太田地区	136	108	79.4
九合地区	171	75	43.9
沢野地区	208	95	45.7
葦川地区	197	87	44.2
鳥之郷地区	123	59	48.0
強戸地区	91	36	39.6
休泊地区	109	52	47.7
宝泉地区	237	96	40.5
毛里田地区	117	49	41.9
尾島地区	129	58	45.0
木崎地区	84	37	44.0
生品地区	108	36	33.3
綿打地区	87	36	41.4
藪塚東部地区	111	45	40.5
藪塚西部地区	92	29	31.5

居住地区未記入件数：28件

## 2 回答者の属性

### (1) 性別

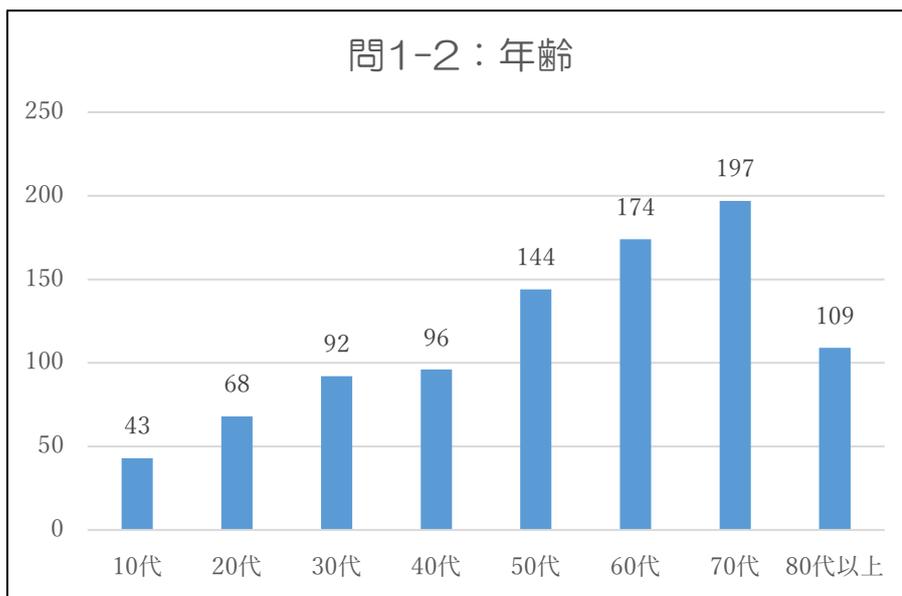
回答者の性別構成は、「男性」47.3%、「女性」51.8%、「その他」（無回答含む）0.9%となっています。【問1-1】



(n=926)

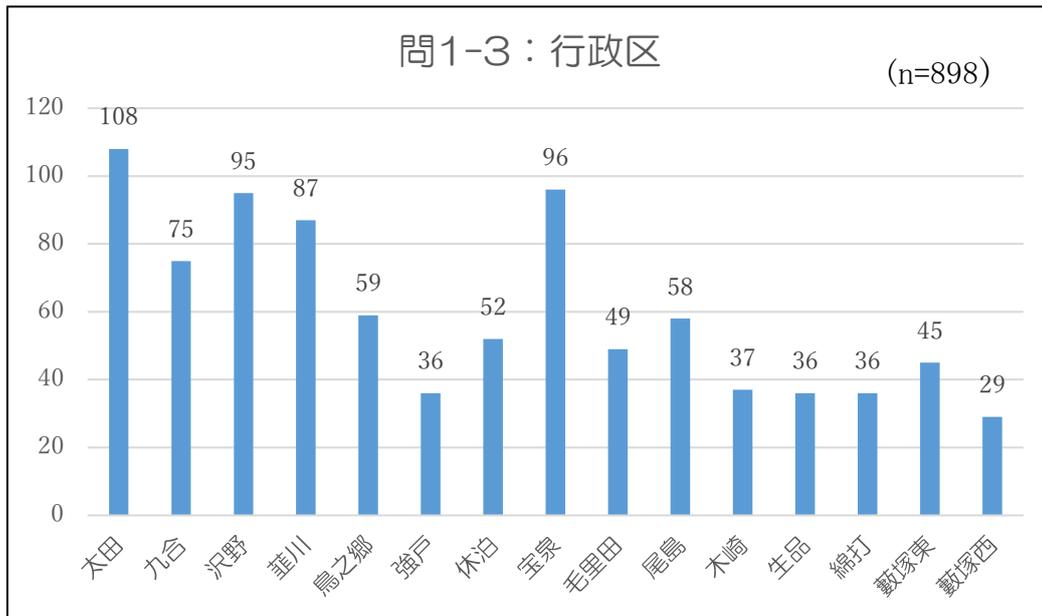
### (2) 年齢

回答者の年齢構成は、「10代」4.6%、「20代」7.4%、「30代」10.0%、「40代」10.4%、「50代」15.6%、「60代」18.9%、「70代」21.3%、「80代以上」11.8%となっています。【問1-2】



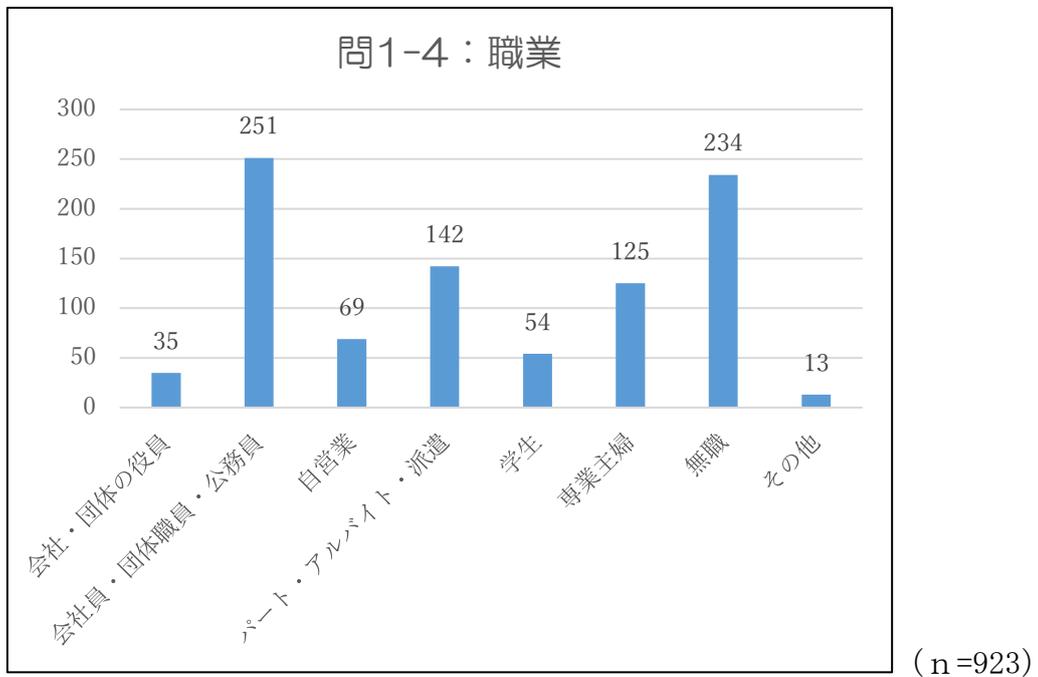
(n=923)

(3) お住いの行政区【問1-3】



(4) 職業

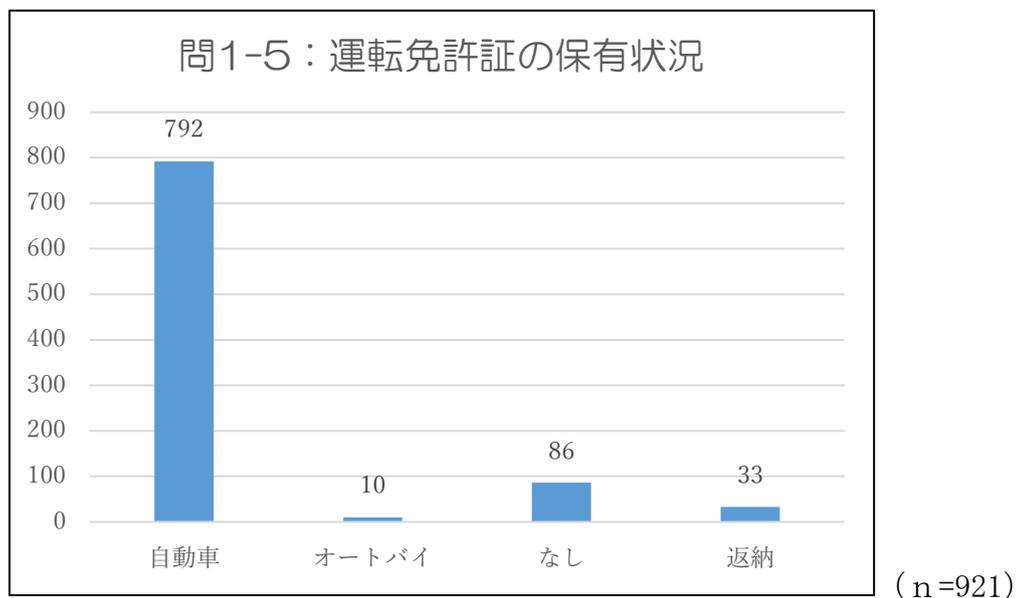
回答者の職業構成は、「会社員、団体職員、公務員」が27.2%と最も多く、次に「無職」25.4%、「パート・アルバイト・派遣」15.4%、「専業主婦」13.5%、「自営業」7.5%、「学生」5.8%、「会社・団体の役員」3.8%、「その他」1.4%となっています。【問1-4】



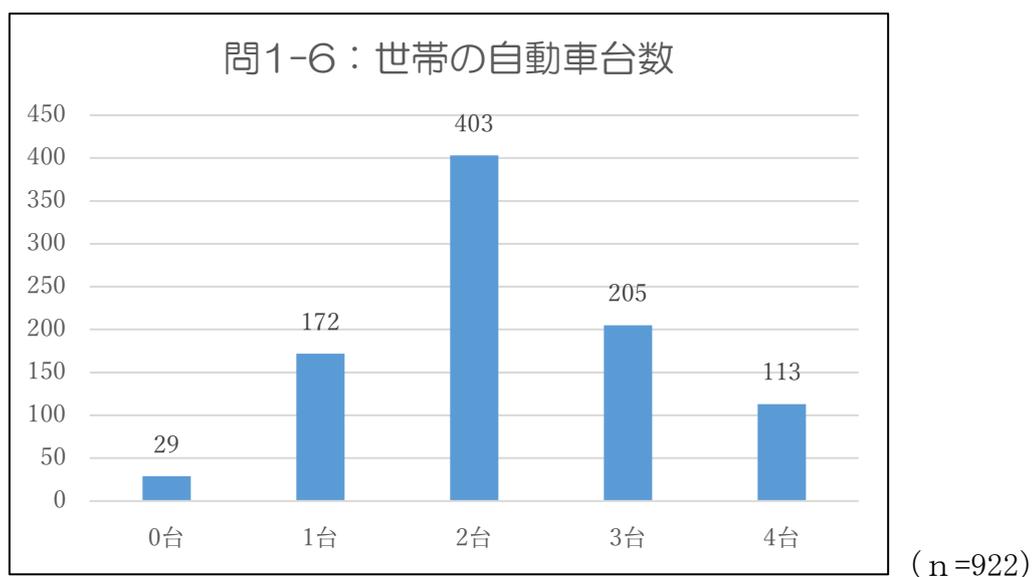
### 3 調査結果

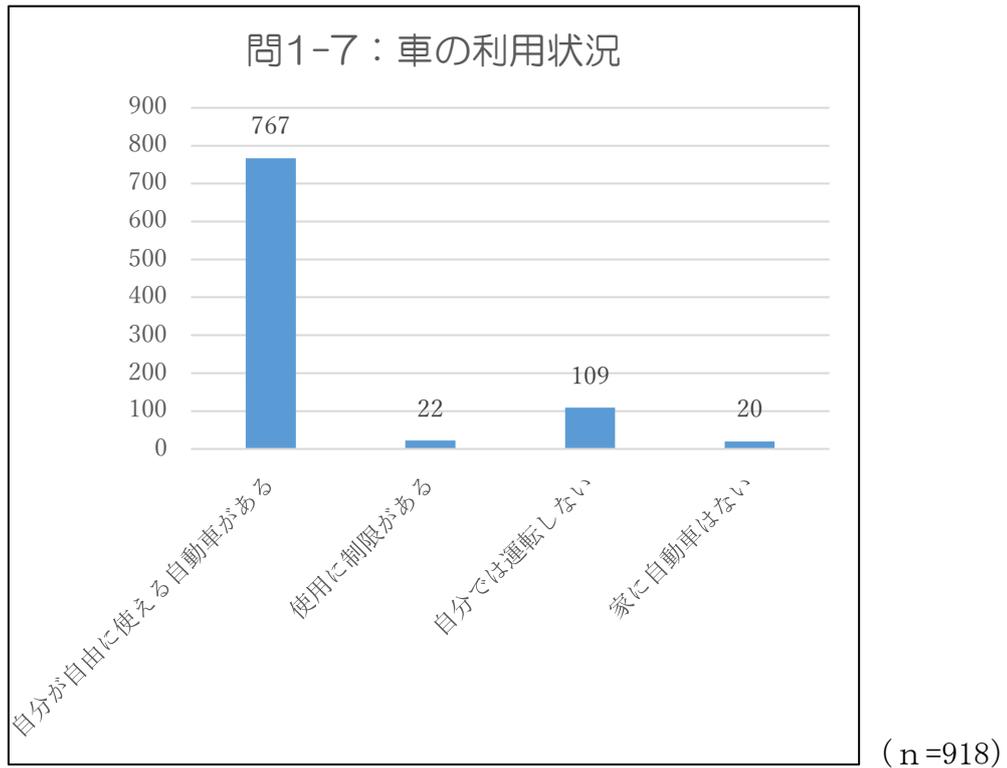
#### (1) 自家用車等の使用環境について

調査の結果、約 87.1%の方が自動車もしくはオートバイ（原付含む）の運転免許証を保有しています。【問1-5】



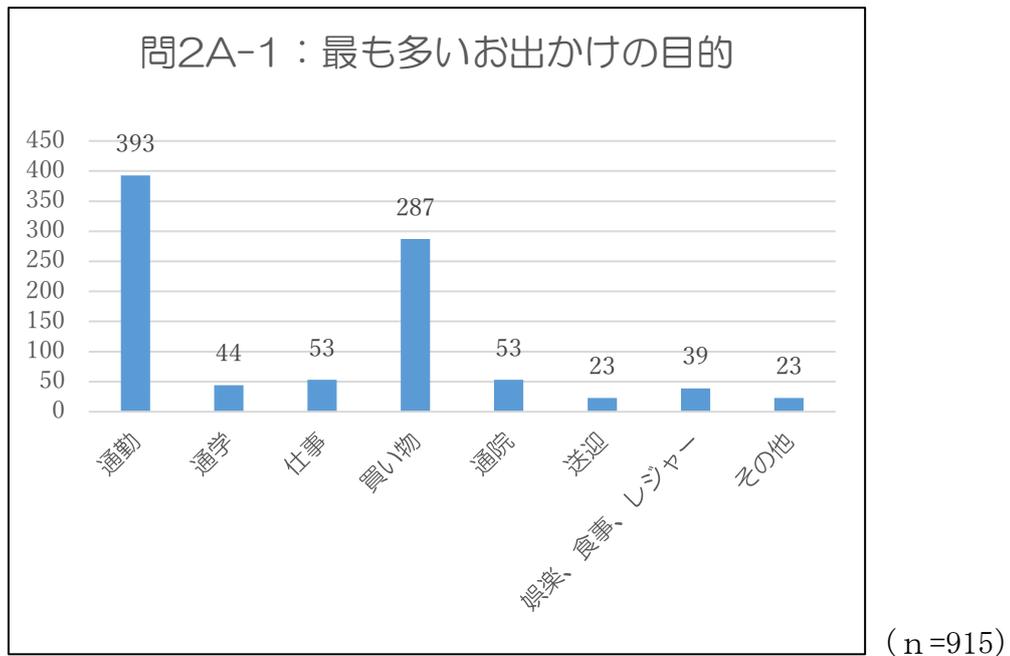
世帯の自動車保有率は96.9%を超えており【問1-6】、そのうち本人が自由に使える車を所有している方は83.6%であり【問1-7】、多くの方が車を利用できる環境にあると推測されます。



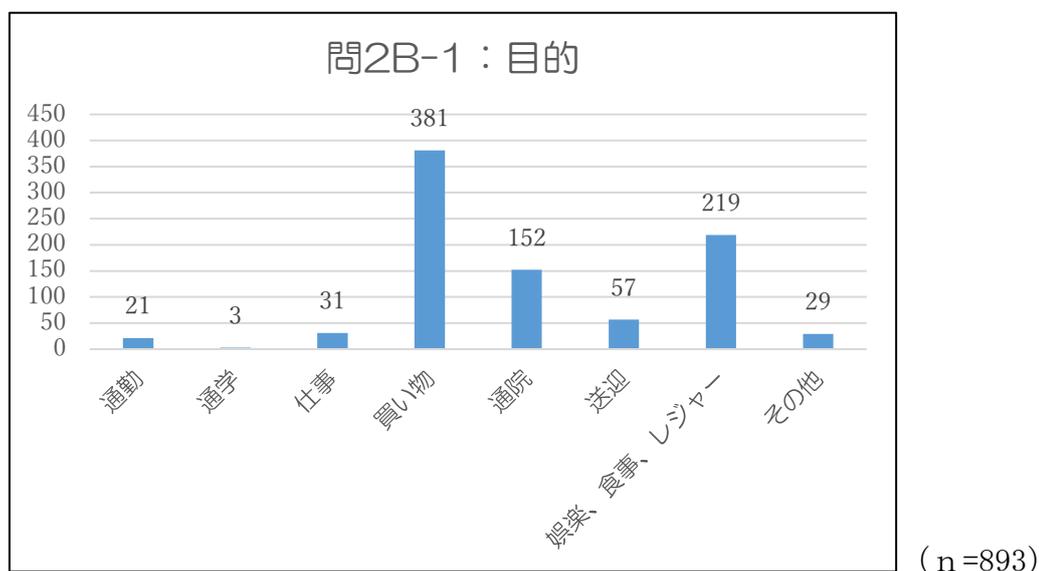


## (2) 日常生活の移動実態について

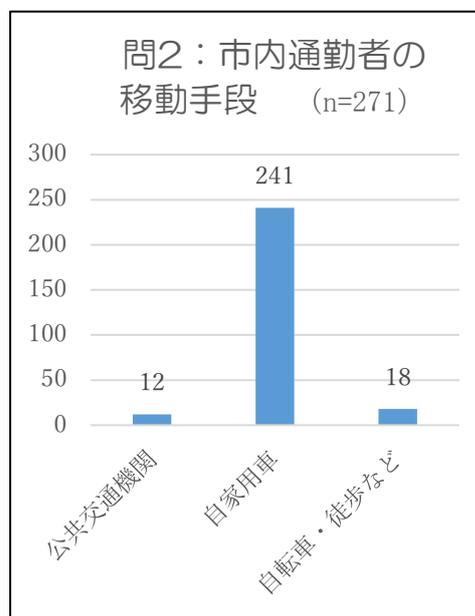
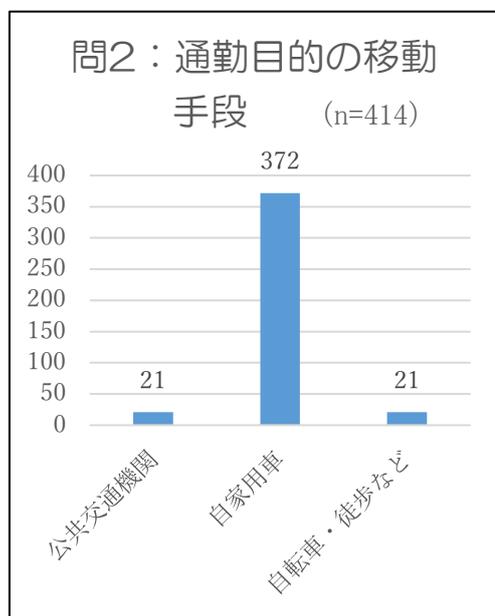
日常の外出で最も多いお出かけの目的としては、「通勤」で 43.0%、「買い物」31.4%、「通院」及び「仕事」5.8%の順となっています。【問2A-1】



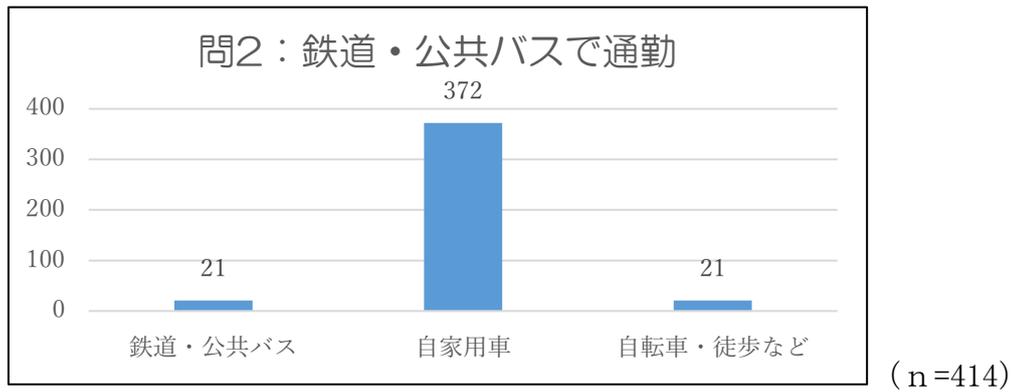
また、その次に多いお出かけの目的としては、「買い物」が42.7%と最も多く、次に、「娯楽、食事、レジャー」24.5%、「通院」17.0%であります。【問2B-1】



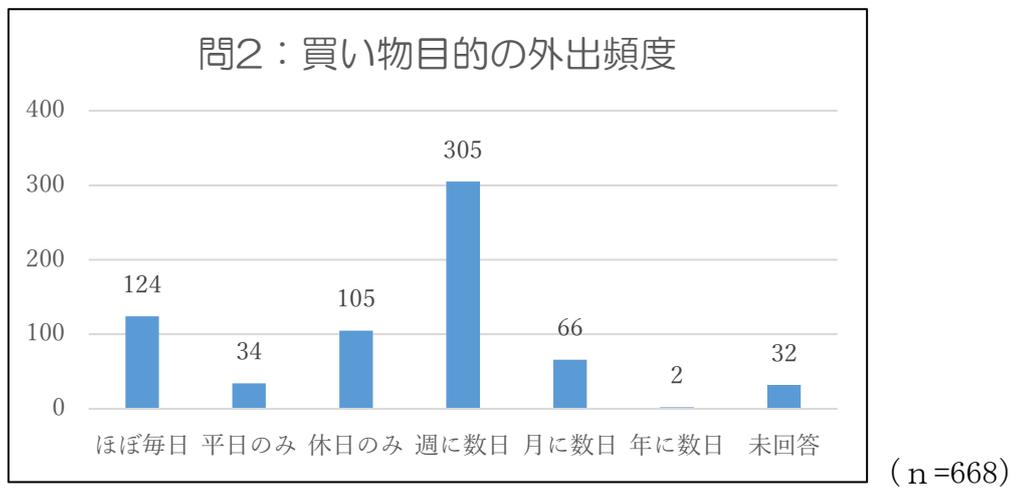
通勤目的の移動手段としては、89.9%の方が通勤時自家用車を使用しているとの回答となっています。また、市内通勤者でも88.9%の方が自家用車で通勤すると回答しています。【問2関係】



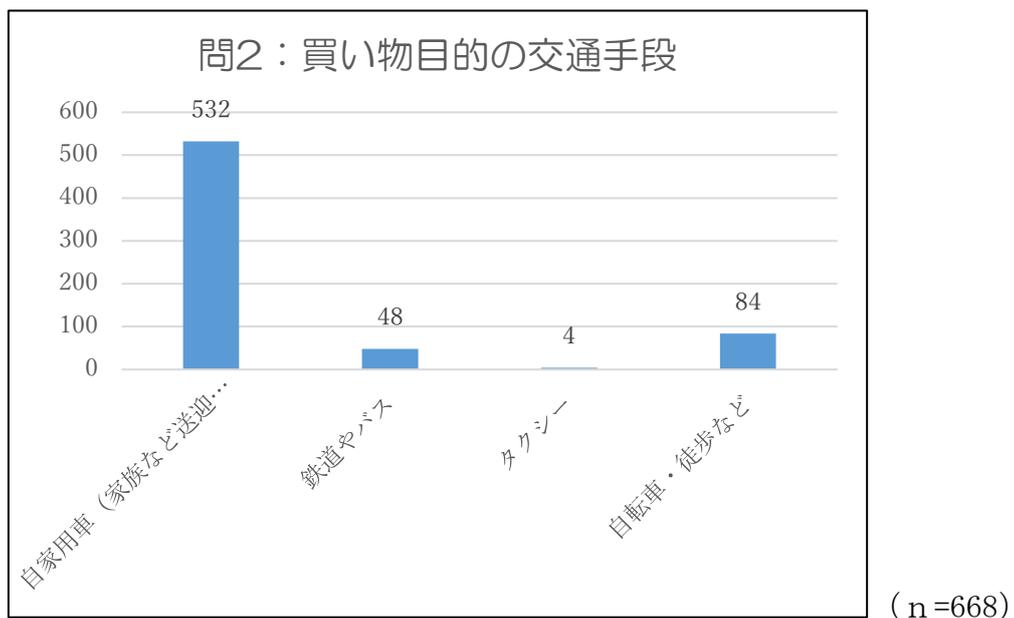
一方、鉄道や公共バスを使用して通勤していると回答した方は5.1%にとどまっています。【問2関係】



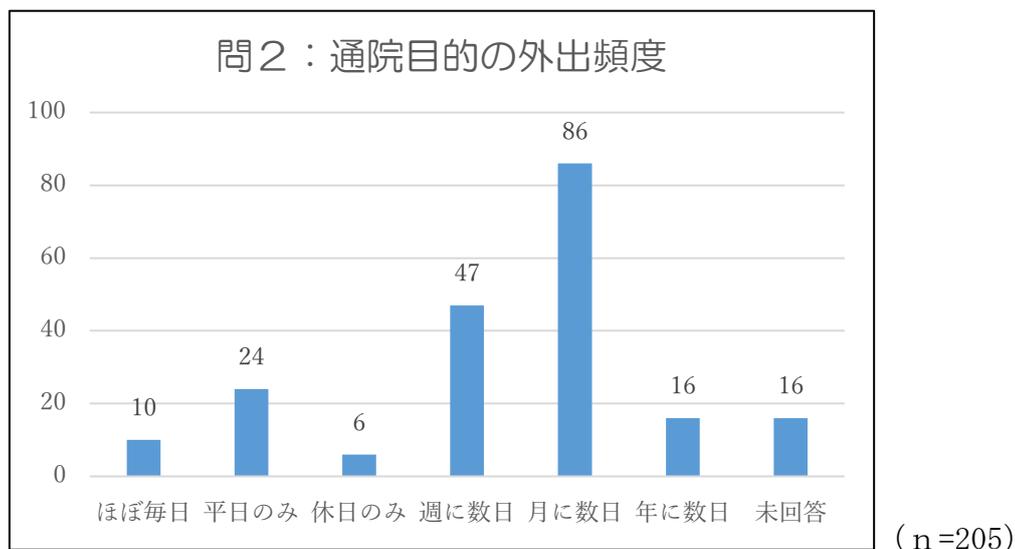
次に、買い物目的の外出頻度は、「週に数日」と回答した方が45.7%と最も多く、次に「ほぼ毎日」18.6%、「休日のみ」15.7%、「月に数日」9.9%、「平日のみ」5.1%の順となっています。【問2関係】



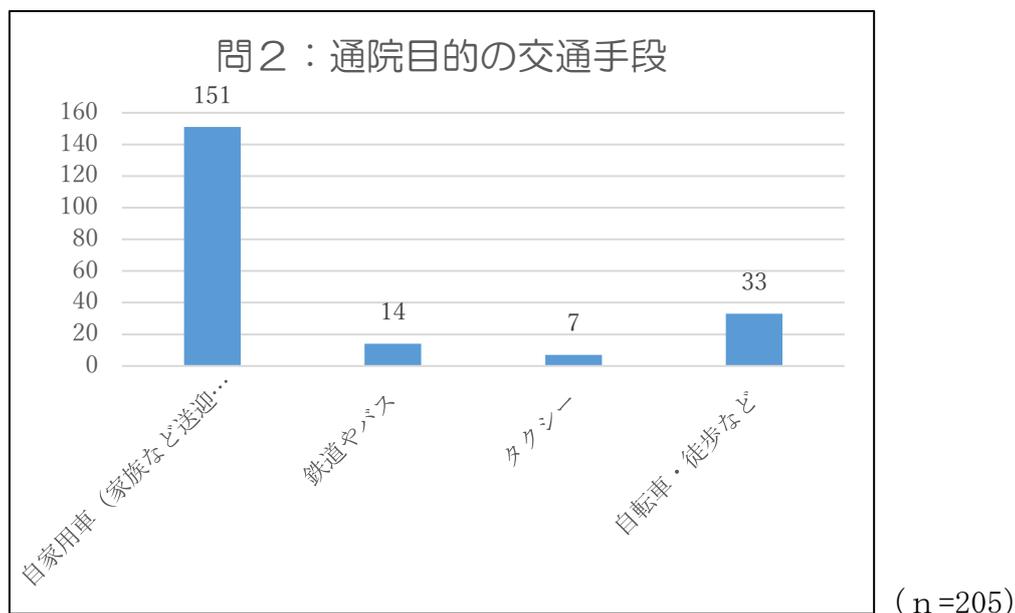
買い物目的の交通手段は、「自家用車(家族など送迎含む)」が79.6%、「鉄道やバス」は7.2%、「タクシー」0.6%となっています。【問2関係】



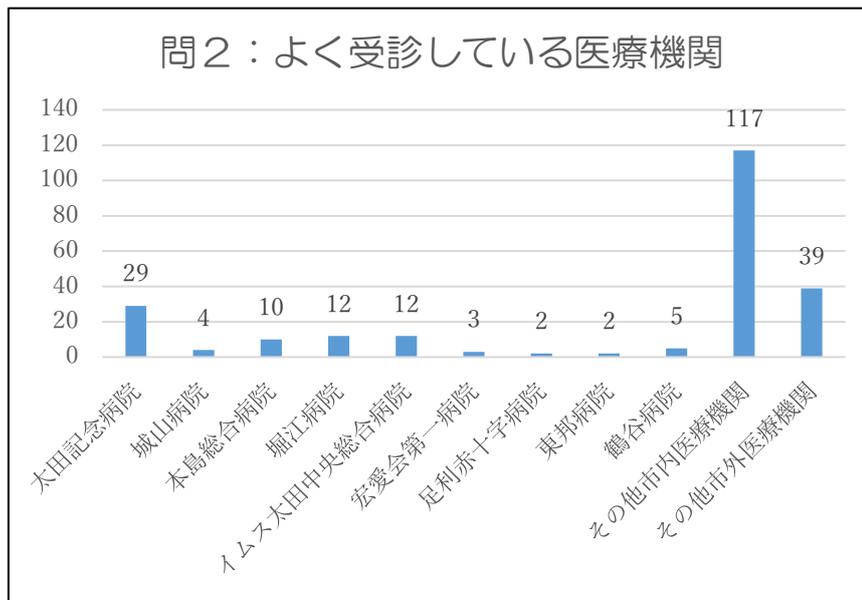
通院目的の外出頻度は、「月に数日」と回答した方が 42.0%、「週に数日」が 22.9%、「平日のみ」11.7%の順となっています。【問 2 関係】



通院目的の交通手段は、「自家用車（家族など送迎含む）」が 73.7%、「鉄道やバス」は 6.8%、「タクシー」3.4%となっています。【問 2 関係】



また、常時受診している医療機関では、市内の救急指定病院を除いた病院やクリニックへの通院と回答した方が 49.8%と最も多く、次に足利赤十字病院、東邦病院、鶴谷病院を除いた市外の病院やクリニック 16.6%、太田記念病院 12.3%、堀江病院とイムス太田中央総合病院が 5.1%となっています。【問 2 関係】



(n=235)

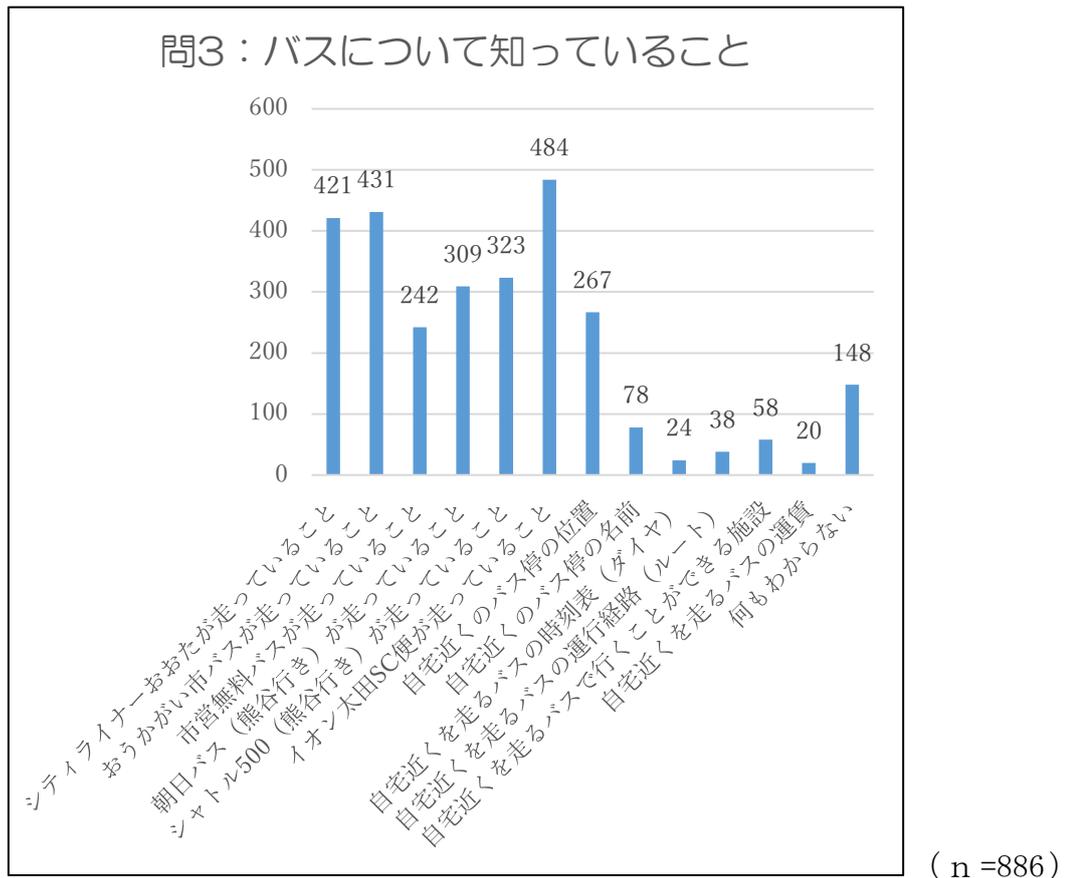
全ての外出目的の移動手段として、自家用車を自ら運転または家族の送迎、自転車の利用、徒歩などの移動手段により9割弱の方が公共交通を利用しなくても日常生活が送れているとの結果となり、世帯での自動車保有割合の結果を踏まえると、本市ではマイカーの依存度の高い傾向にあることが伺えます。

### (3) バスの認知度について

バスの認知度については、「イオン太田SC便」が54.6%と最も多く、市営バスでは、「おうかがい市バス」が48.6%と認知度が高く、次に「シティライナーおおた」47.5%、「市営無料バス」27.3%の順となっています。

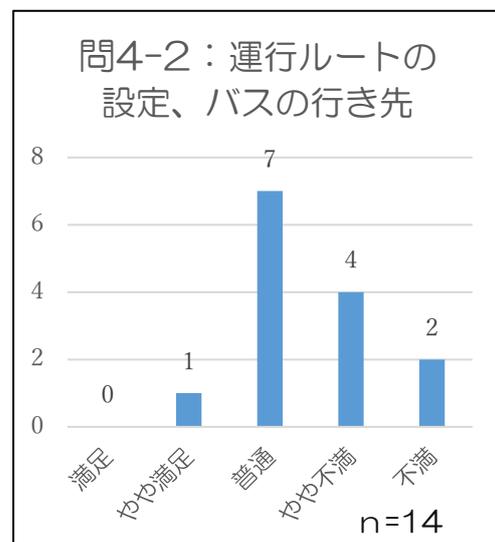
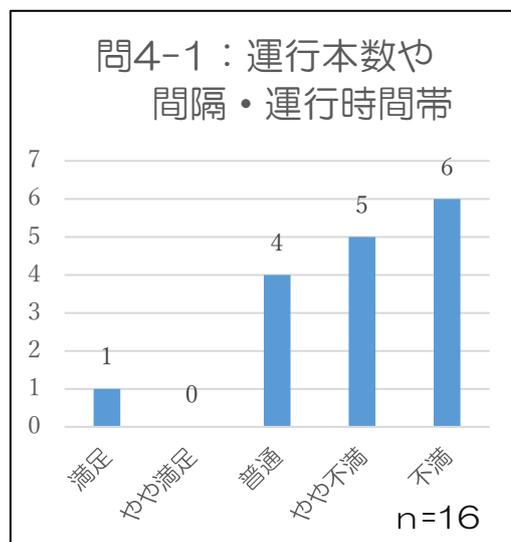
一方で、バスのことは「何もわからない」と回答した方の割合も16.7%と高く、また、バスの時刻表や運行経路、行くことができる施設、運賃を把握している方の割合は15.8%にとどまっています。

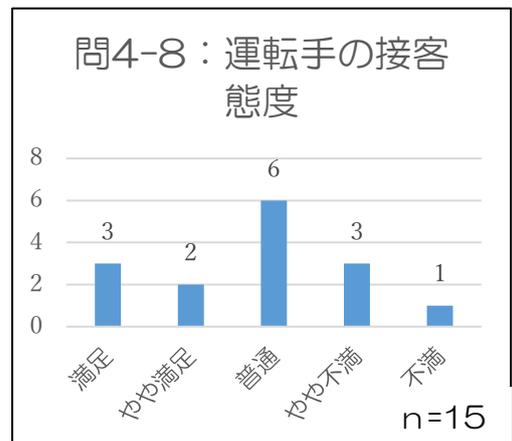
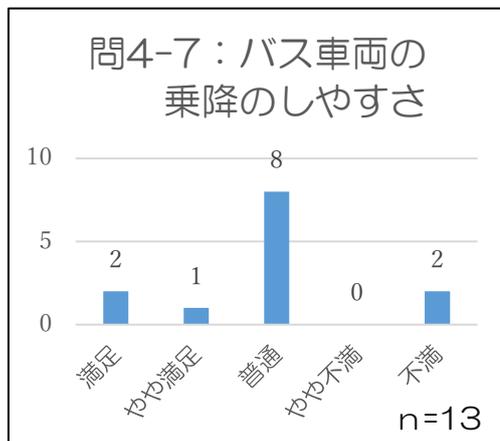
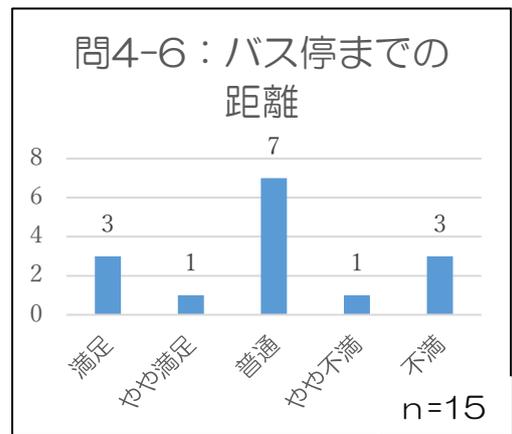
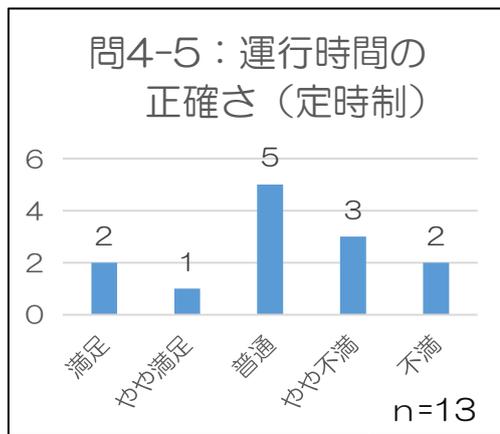
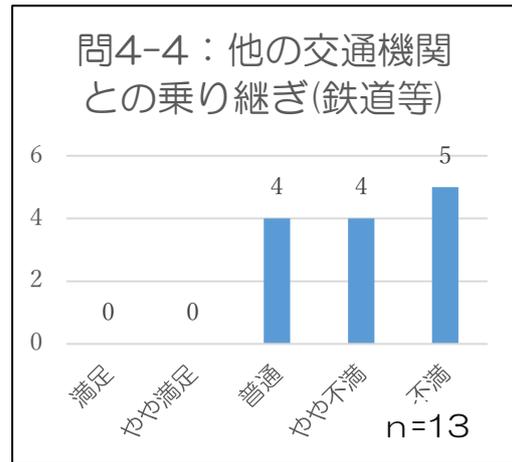
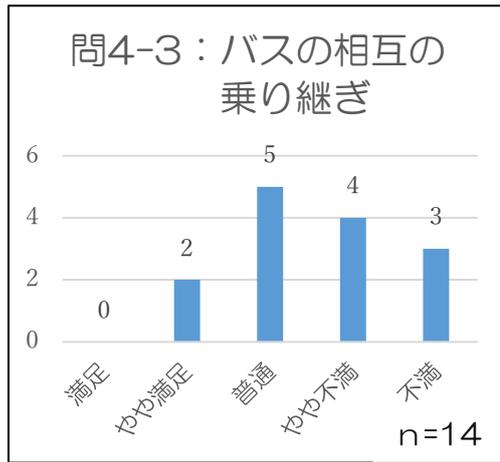
今後、バス自体の認知度を高めるため、自宅近くを走るバスの運行経路に該当しない地区の方も含め、更なる周知方法や利用を促す検討が必要と考えられます。【問3】(複数選択可)

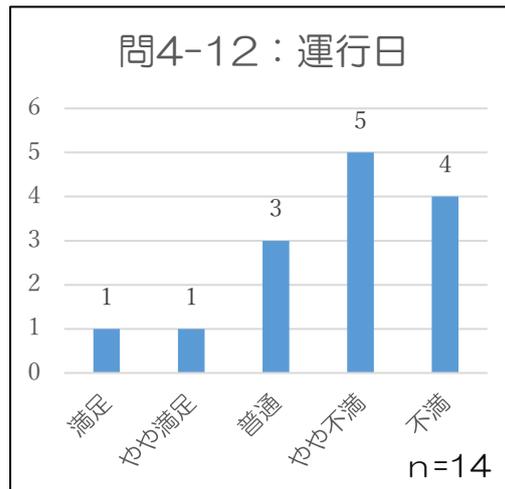
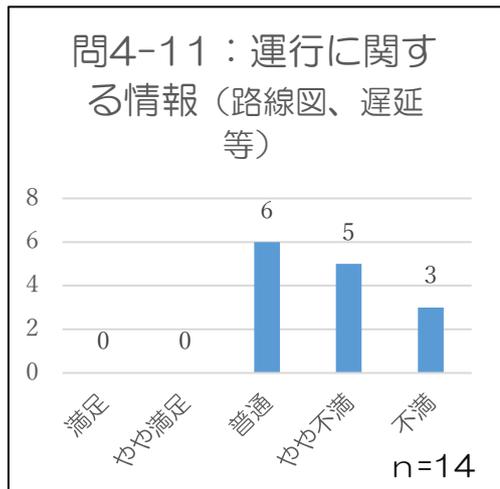
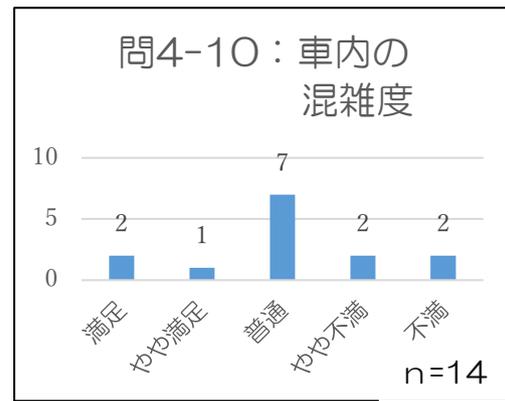
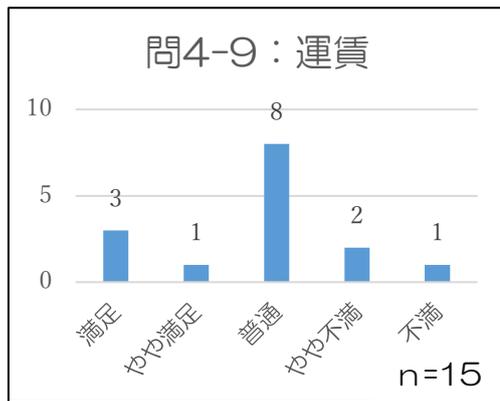


#### (4) バスの利用について

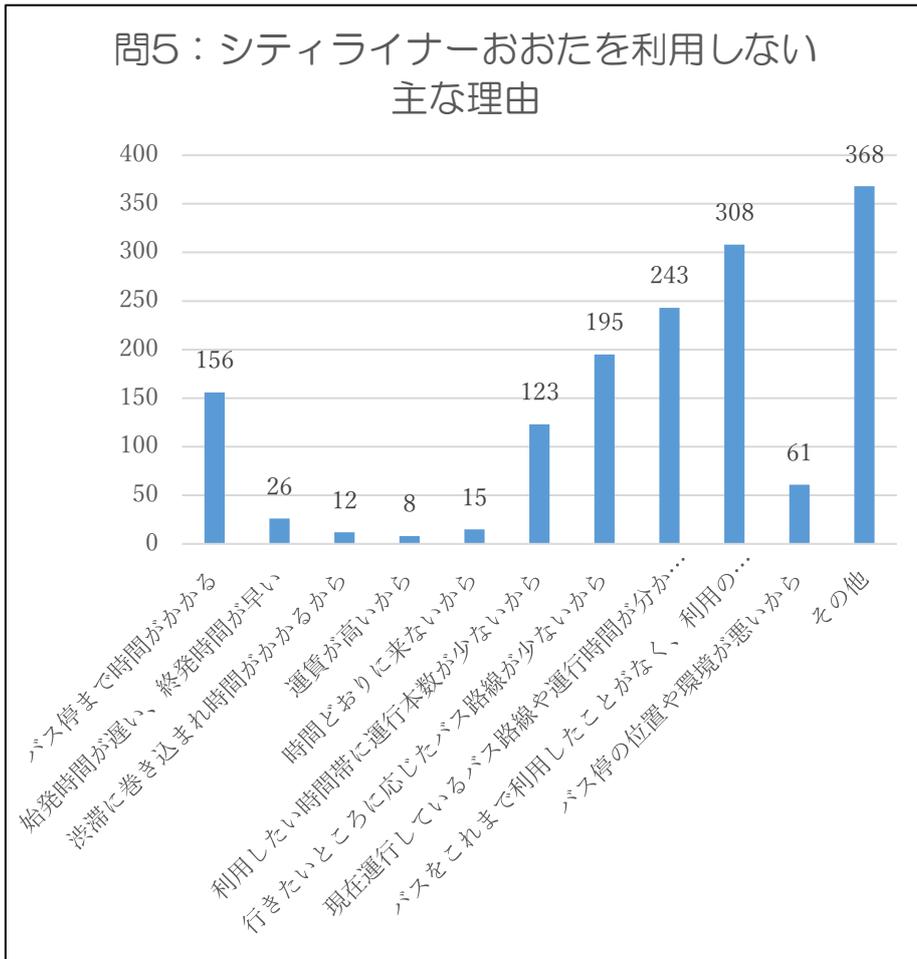
シティライナーおおたを利用する方で、各項目において満足度を調査したところ、下記のような結果となりました。特に、「運行本数や間隔・運行時間帯」、「運行ルートの設定、行き先」、「バス及び他の交通機関との乗り継ぎ（鉄道）」、「運行に関する情報（路線図・遅延等）」及び「運行日」についての満足度が低い結果となっています。【問4関係】



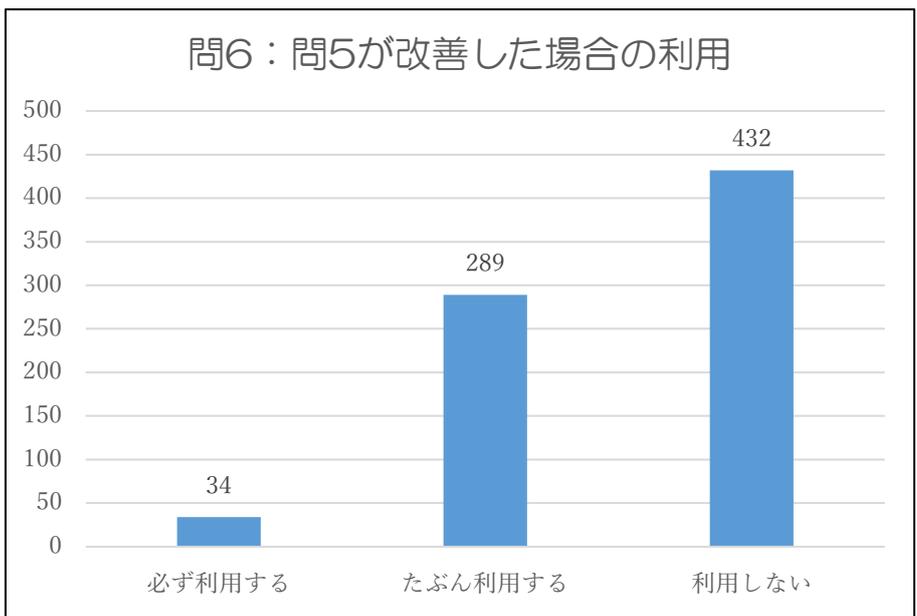




一方で、利用しない方の理由としては、「その他」と回答した方が43.2%と最も多く、その理由としては、「自家用車があるためバスを利用する必要がない」との記載が多く見受けられました。次に、「バスをこれまで利用したことがなく、利用の仕方がわからない」と回答した方が36.2%、「現在運行しているバス路線や運行時間がわからない」と回答した方が28.5%の順となっています。【問5】（3つまで選択可）

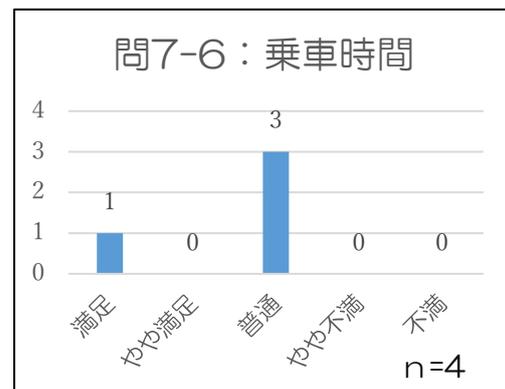
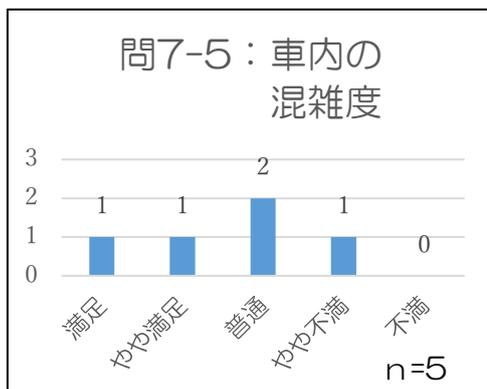
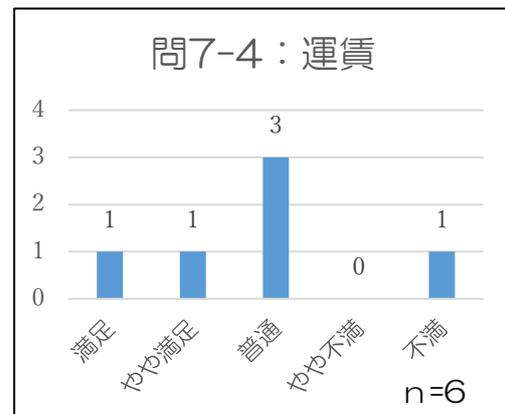
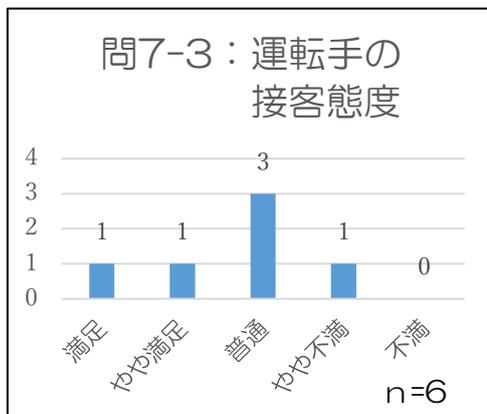
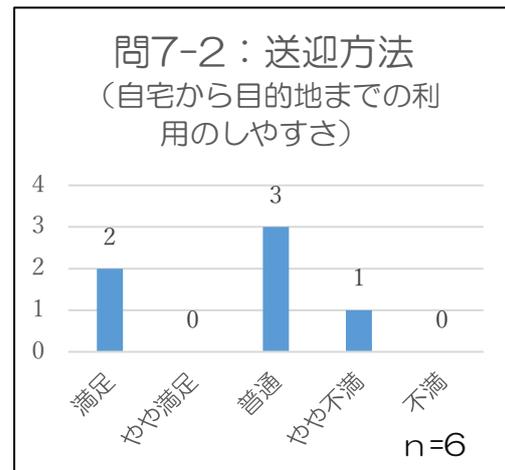
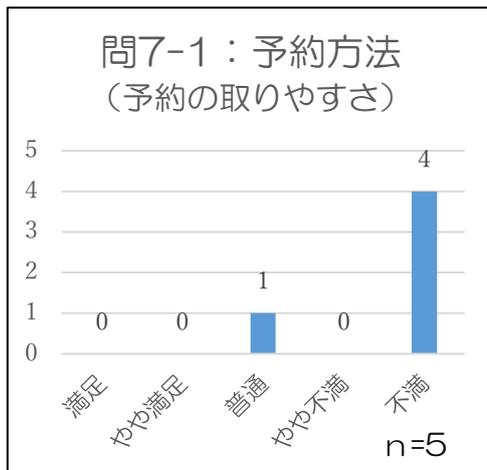


なお、現在コミュニティバスを利用していないが、バスが便利になれば「必ず利用する」と回答した方の割合は 4.5%、「たぶん利用する」と回答した方の割合は 38.3%に対し、「改善されても利用しない」と回答した方の割合は 57.2%となっています。【問6】



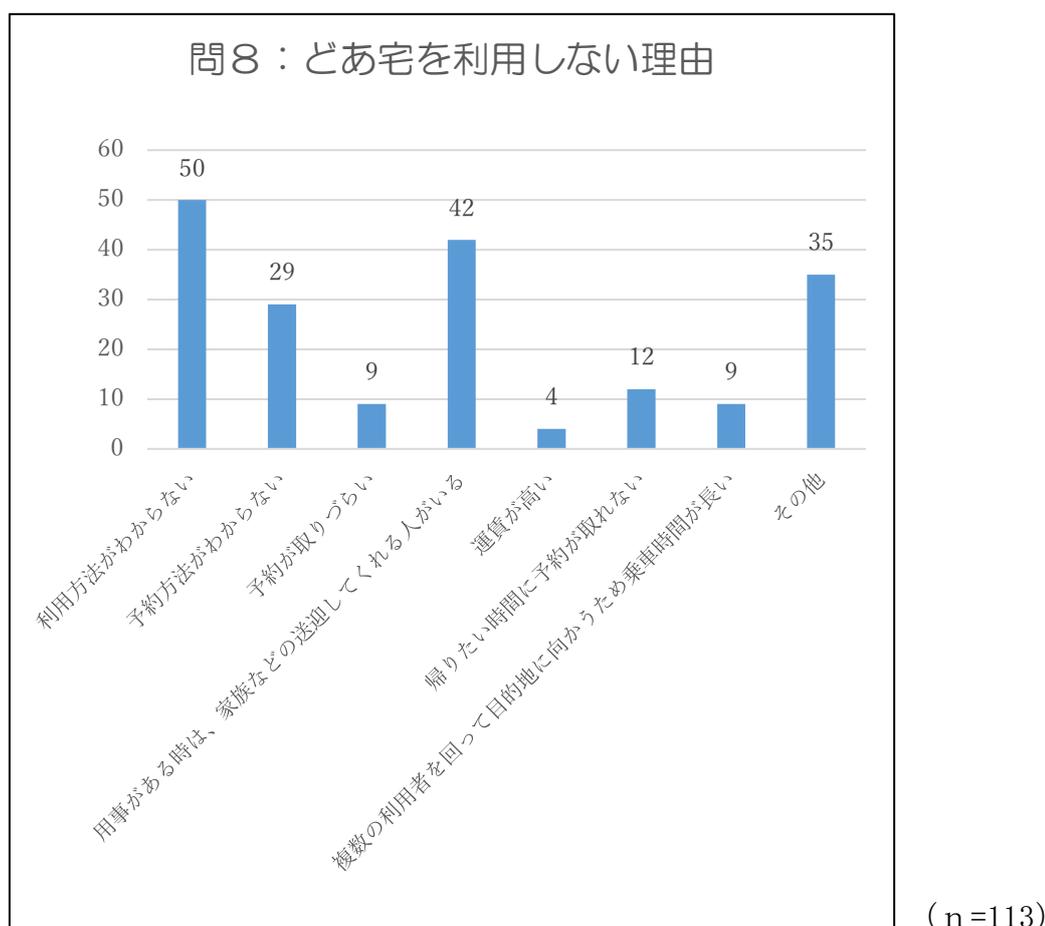
おうかがい市バスを利用する方で、各項目において満足度を調査したところ、下記のような結果となりました。

「送迎方法」や「接客態度」、「運賃」、「混雑度」についての満足度が高い結果となっています。一方で、「予約方法」については依然として不満度が高い結果となっています。その理由としては、おうかがい市バスの停留所は地元要望として区長から申請のあった際、審査し妥当と判断した場合に随時設置していますが、年々停留所の数が増えたことにより、行き先が多方面に行くことができるようになるため、利便性は向上したと考えられますが、一方で、運行効率が低下し予約が取りづらくなっていることが要因の一つとして推測されます。【問7関係】

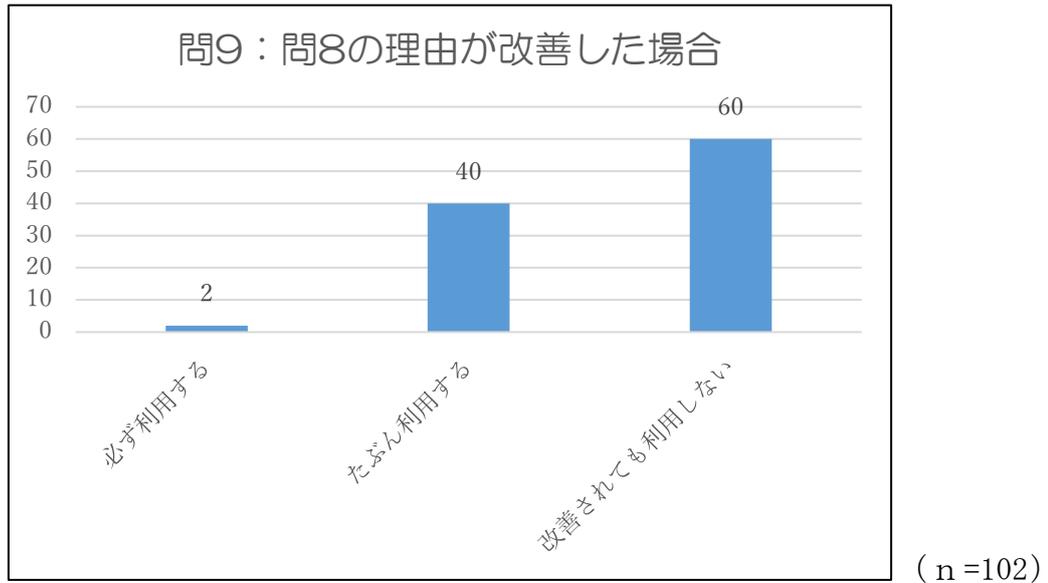


おうかがい市バスの利用登録している方で、利用しない理由としては、登録はしたものの、「利用方法がわからない」と回答した方が44.2%と最も高く、次に「用事がある時は、家族などの送迎してくれる人がいる」との理由により、移動手段が確保されているため利用していないと回答した方の割合も37.2%と高い数値となっています。【問8】（3つまで選択可）

今後、予約が殺到する曜日や時間帯を登録者に周知し、予約時間の工夫をしてもらうとともに、おうかがい市バスの乗合による利用促進を周知し、多くの登録者が利用できるように検討する余地があります。

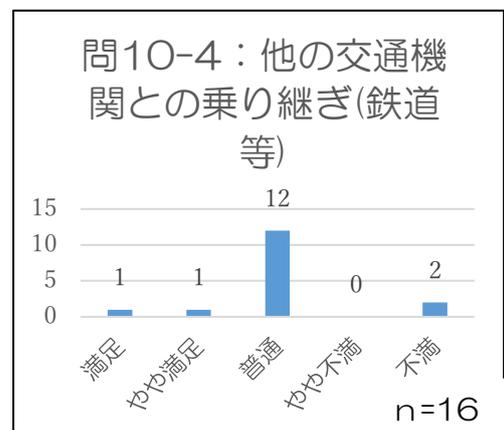
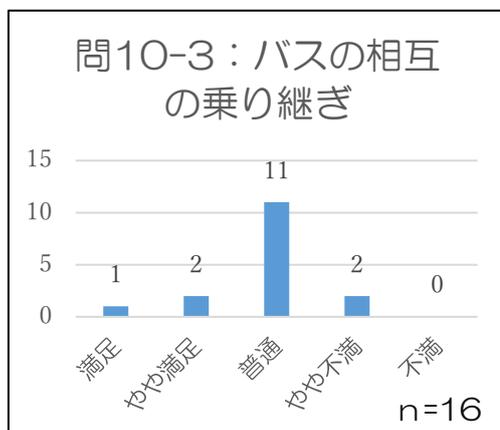
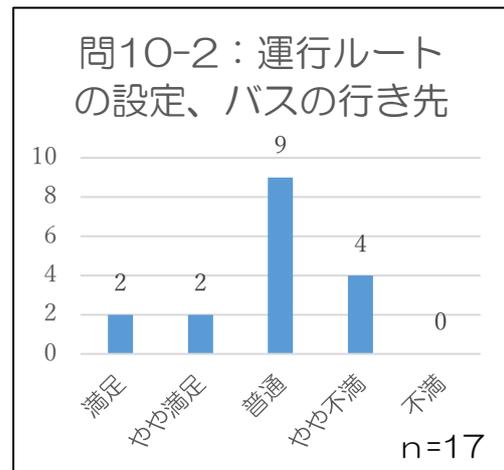
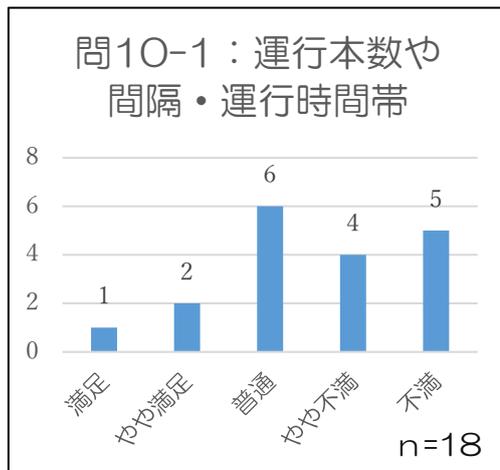


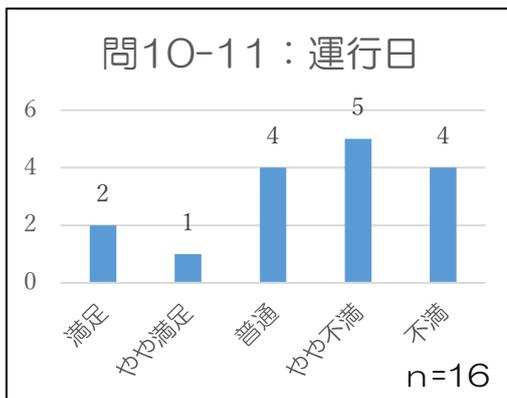
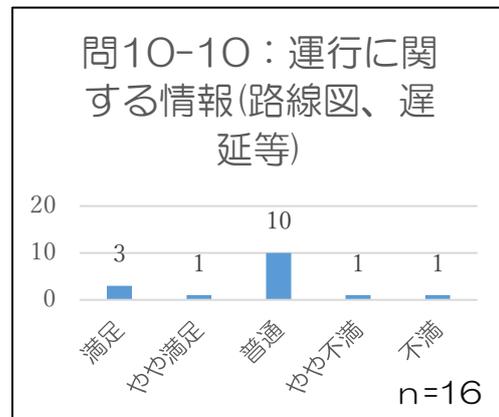
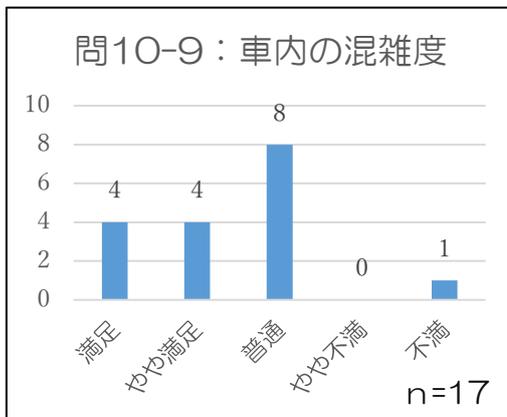
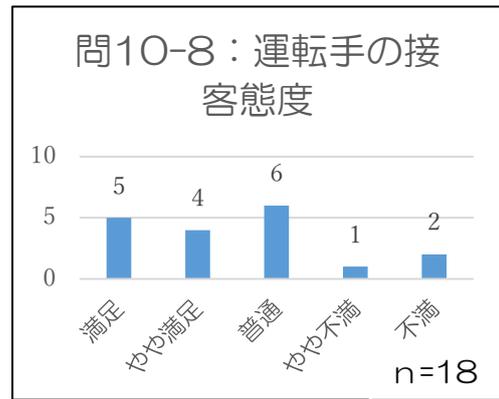
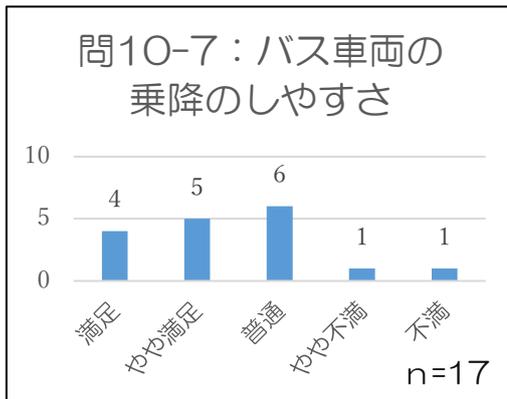
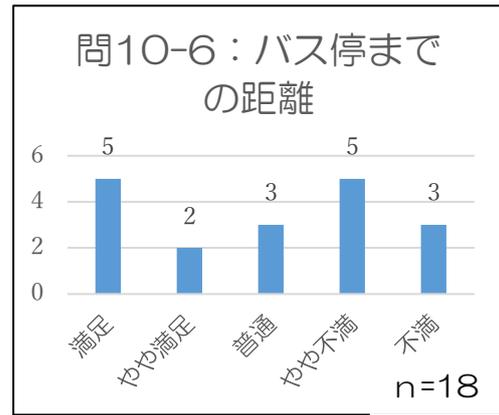
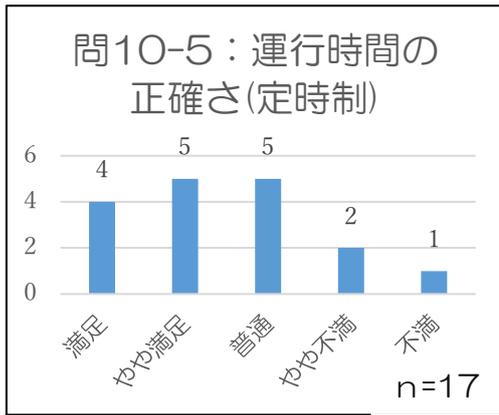
なお、前記の理由で利用していない方で、おうかがい市バスが便利になれば、「必ず利用する」と回答した方の割合は2.0%、「たぶん利用する」と回答した方の割合は39.2%に対し、「改善されても利用しない」と回答した方の割合は58.8%となっています。【問9】



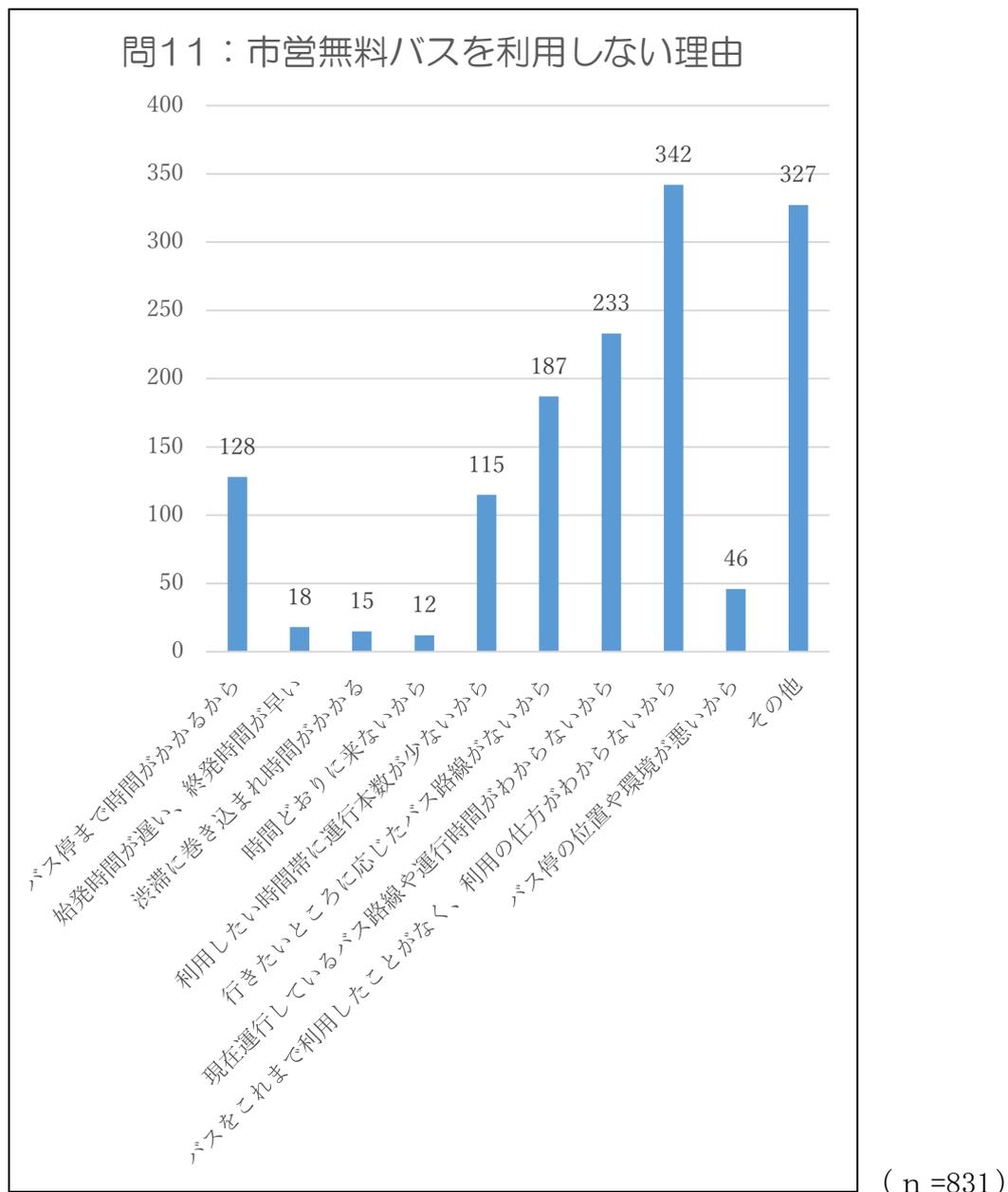
市営無料バスを利用する方で、各項目において満足度を調査したところ、下記のような結果となりました。

「運行時間の正確さ」、「バス車両の乗降のしやすさ」についての満足度が高い結果となっています。一方で、満足度が低い結果の理由としては、「運行本数や間隔・運行時間帯」、「運行日」が挙げられています。【問10】





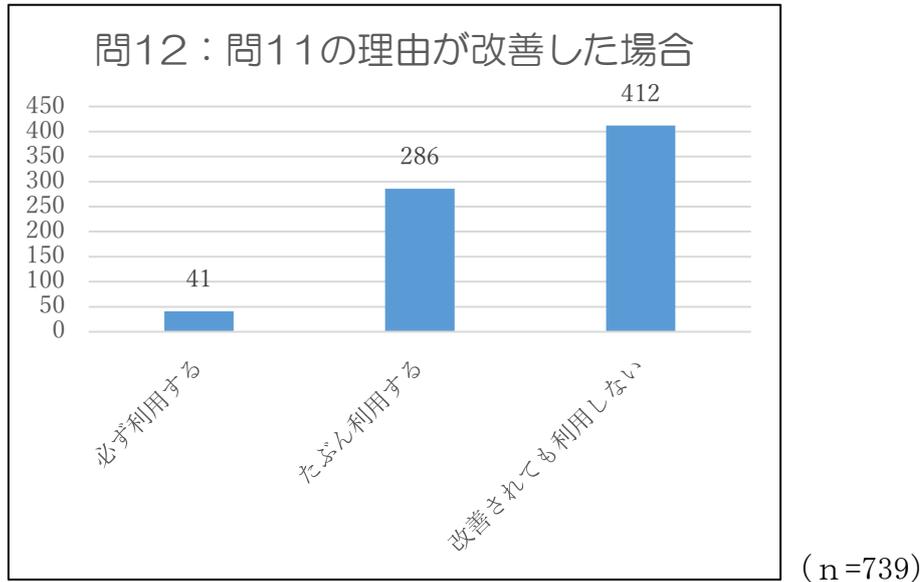
市営無料バスを利用しない方の理由としては、「バスを利用したことがなく、利用の仕方がわからない」と回答した方が41.2%と最も多く、次に「現在運行しているバス路線や運行時間がわからない」28.0%、「行きたいところに応じたバス路線がない」22.5%の順となっています。【問11】（3つまで選択可）



また、「その他」の理由としては、「自家用車により移動手段あり」との理由や「家族による送迎支援あり」などにより、移動手段が確保されているため利用していないと回答した方の割合も39.3%となっています。

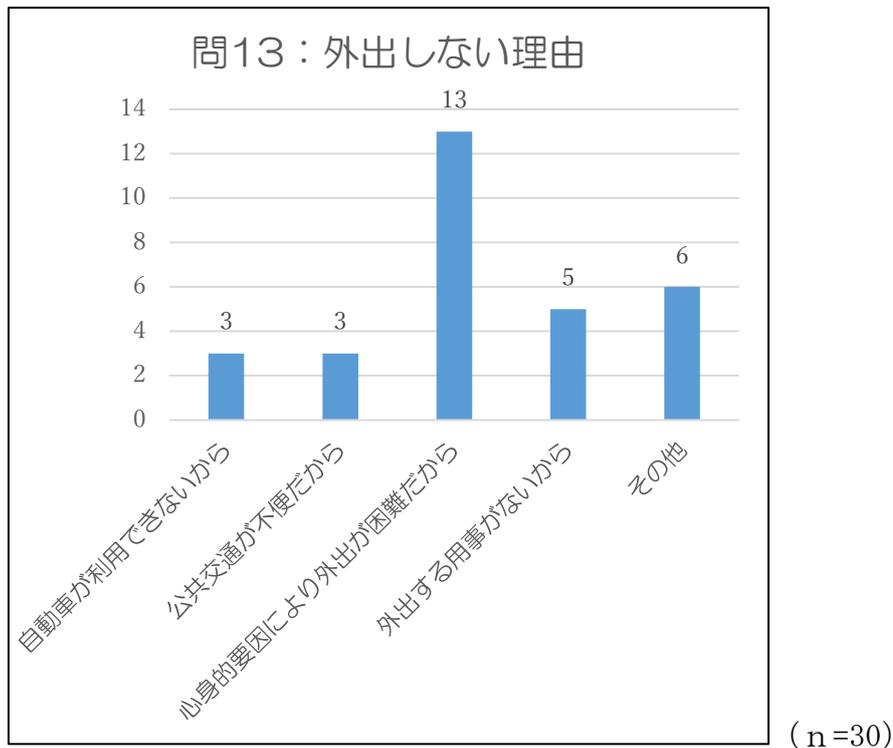
なお、市営無料バスを利用していないが、バスが便利になれば「必ず利用する」と回答した方の割合は5.5%、「たぶん利用する」と回答した方の割合は38.7%に対し、「改善されても利用しない」と回答した方の割合は55.8%

となっています。路線バスやおうかがい市バスと同様の結果となり、利用促進に向けた周知方法の検討が必要と考えられます。【問12】



(5) 外出しない、外出できない方について

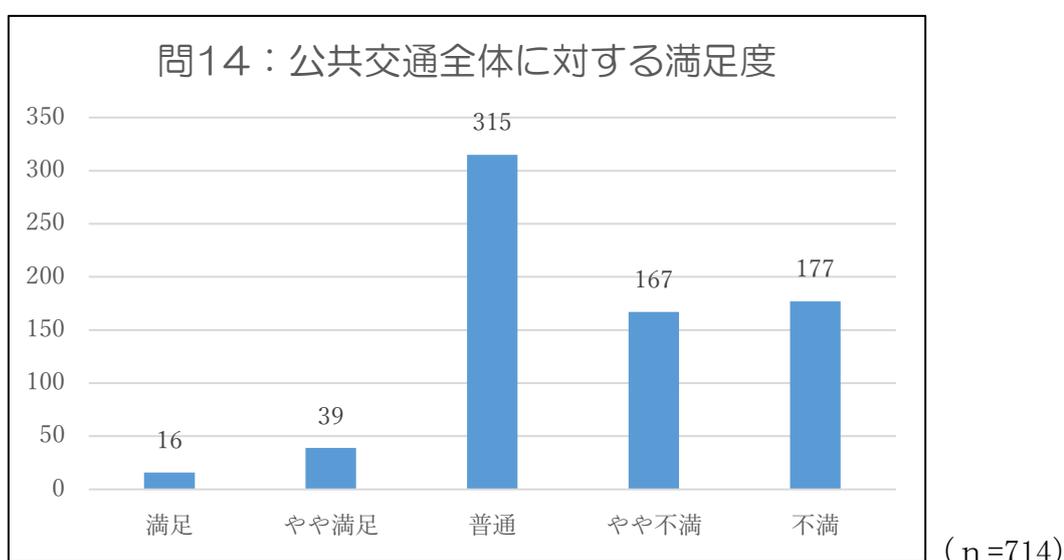
「外出しない・できない理由は」との設問では、「心身的要因により外出が困難」と回答した方が43.3%、「その他」20%、「外出する用事がない」16.7%、「自動車が利用できないから」10%、「公共交通が不便だから」10%の結果となっています。【問13】



## (6) 公共交通に対する満足度について

現在の太田市内の鉄道やバスなど、公共交通全般に対する満足度については、「普通」と回答した方の割合が全体の44.1%を占めていますが、「満足・やや満足」と回答した方の割合は7.7%にとどまっております。一方、「不満・やや不満」と回答した方の割合は48.2%と市民にとって日常生活を送るうえで半数近くの方が不満に思っている傾向となっております。【問14】

「不満・やや不満」の理由としましては、運行本数やバス停留所の増設、近隣市町への乗り継ぎについての要望が多く記述されており、また、バス情報の周知不足を指摘する記述もあり、満足度が低い結果となっておりますと推測されます。



## (7) バスで行きたい施設について

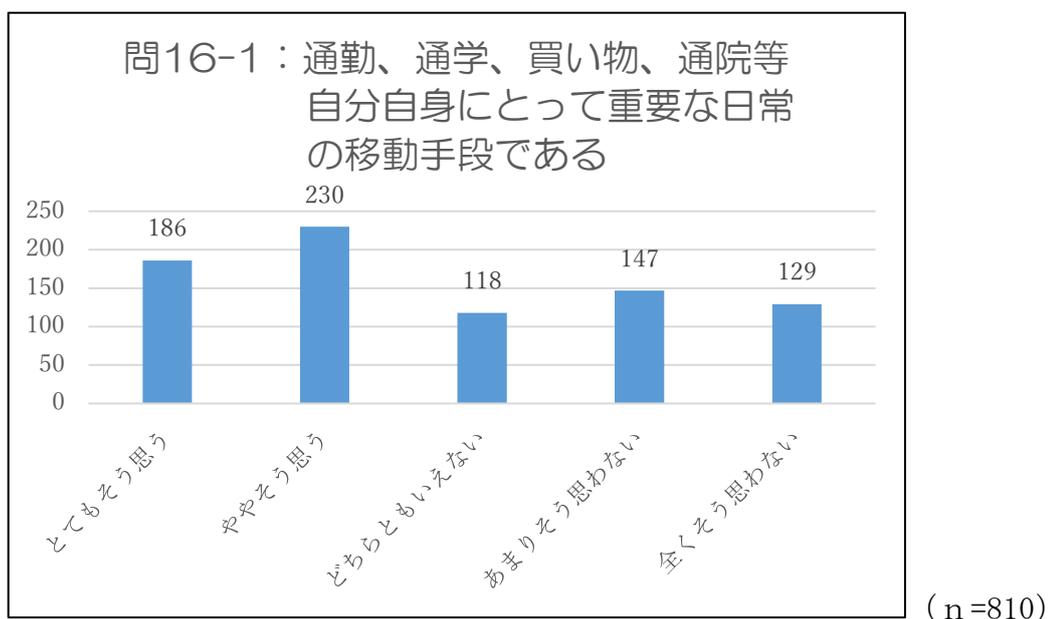
今回のアンケートに挙げられた具体的な施設、例えば、病院やクリニック、ショッピングセンターやスーパー、公共施設及び駅、並びに日帰り入浴施設など、日常生活を送るうえで必要な市内の施設については、現在の公共バスで対応できています。一方で近隣市町の施設、例えば、JR駅やショッピングモールへの乗り入れを希望する要望に対しましては、市町村を超える広域的な公共交通となることから、他市の公共交通機関との乗り継ぎについて、今後研究してまいります。【問15】

## (8) 公共交通の社会的な機能や役割について

公共交通機関が果たすべき社会的な役割や機能について、「通勤、通学、買い物、通院など自分自身にとって重要な日常の移動手段である」との設問に対し、「ややそう思う」と回答した方が28.4%と最も多く、「とてもそう思う」23.0%を含めると回答者の半数以上の方が公共交通を重要な日常移

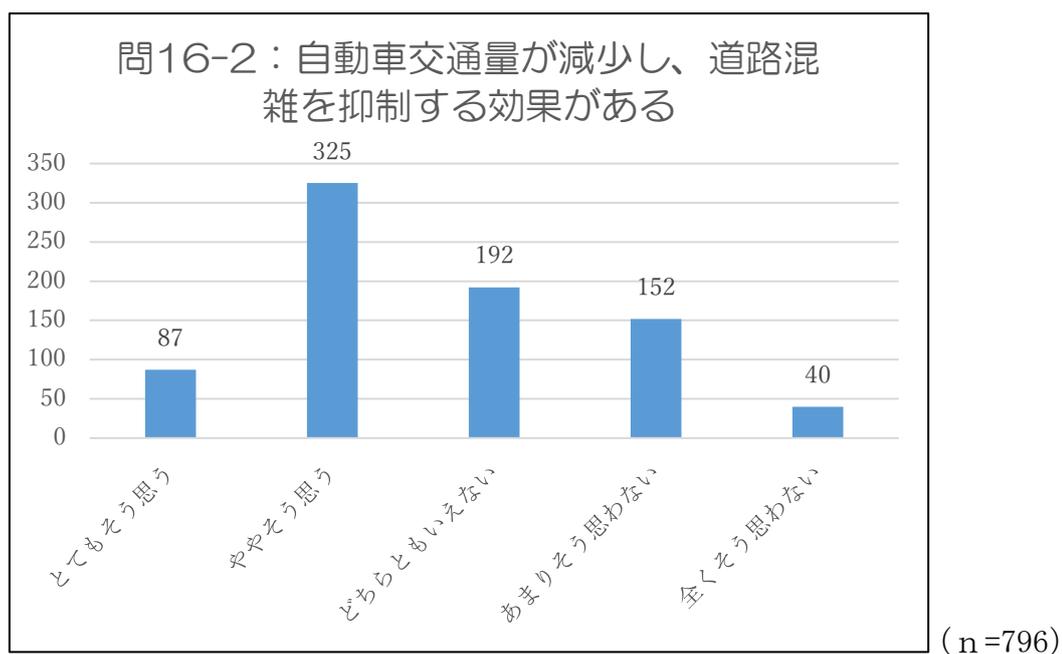
動手段と考えています。一方で、「あまりそう思わない」18.1%、「全くそう思わない」15.9%、「どちらともいえない」14.6%との回答となっています。

【問16-1】



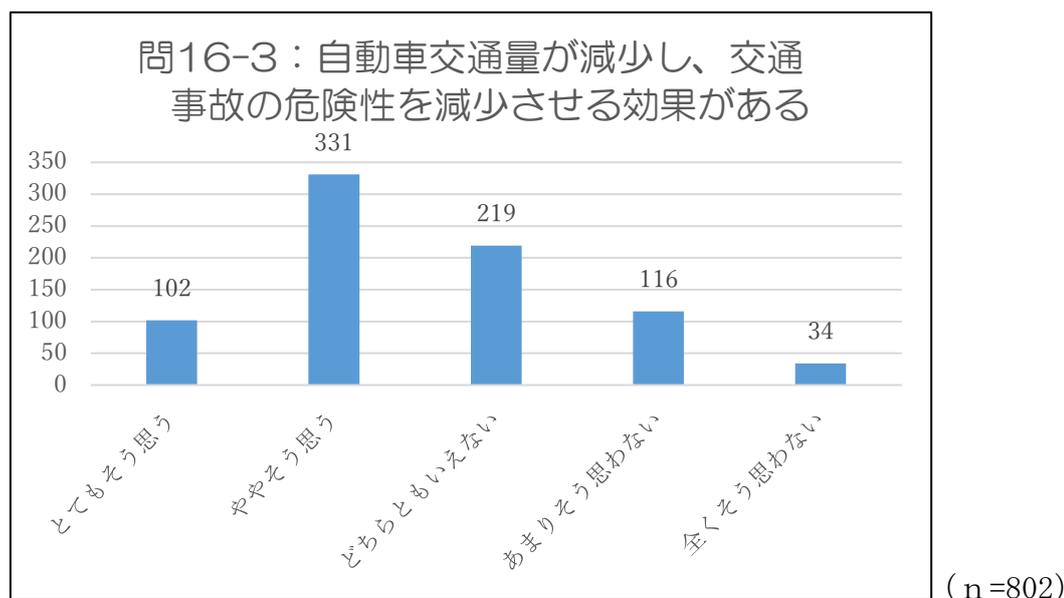
公共交通を利用することで「自動車の交通量が減少し、道路混雑を抑制する効果がある」との設問に対し、「やや思う」と回答した方が40.9%、「とても思う」10.9%を含めると回答者の半数以上の方が公共交通を利用することで交通渋滞を緩和できると考えている方が多いことが伺えます。

一方で、「あまりそう思わない」19.1%、「全くそう思わない」5.0%、「どちらともいえない」24.1%との回答となっています。【問16-2】



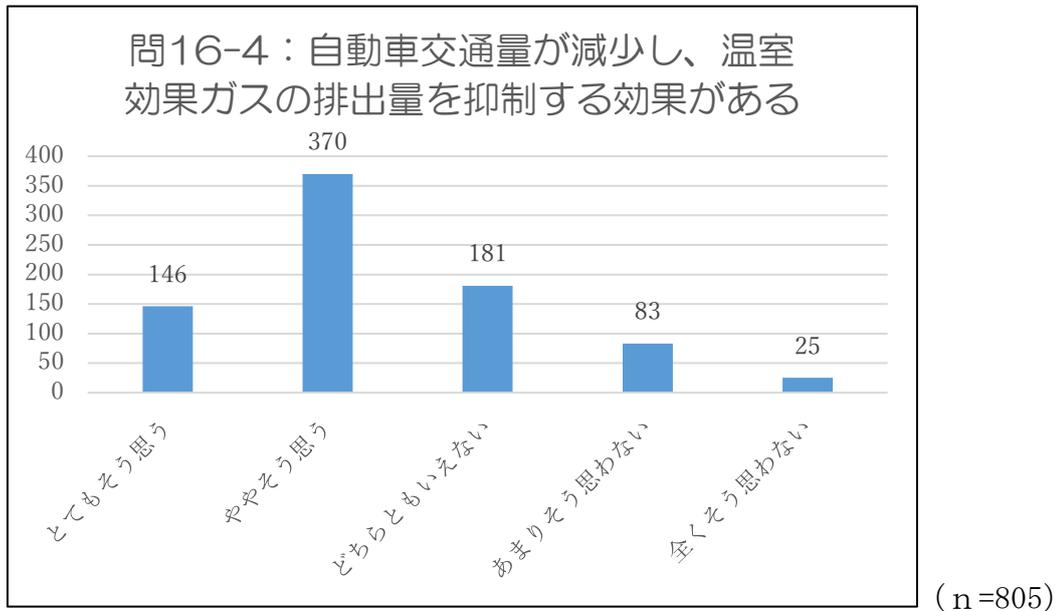
同様に、交通事故の危険性を減少させる効果について質問しましたが、「ややそう思う」と回答した方が41.3%と最も多く、「とてもそう思う」12.7%を含めると回答者の半数以上の方が事故防止に繋がると交通安全への意識の高さが伺えます。

一方で、「あまりそう思わない」14.5%、「全くそう思わない」4.2%、「どちらともいえない」27.3%との回答となっています。【問16-3】



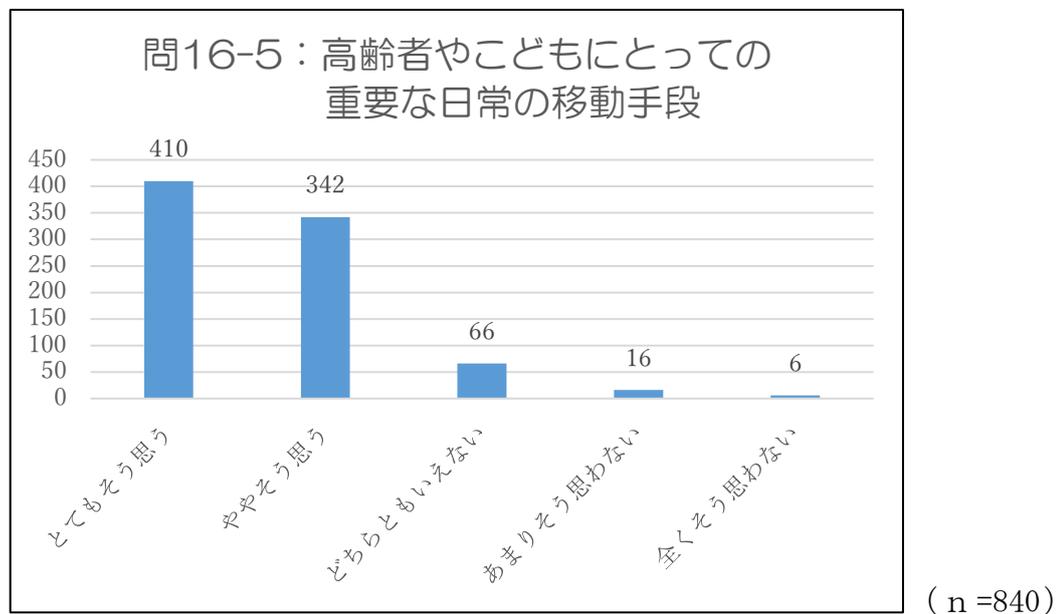
地球温暖化対策のために公共交通機関を利用することで、「温室効果ガスの排出量を抑止する効果がある」との設問に対し、「ややそう思う」と回答した方が46.0%、「とてもそう思う」18.1%を含めると回答者の6割以上の方が地球温暖化対策として、公共交通機関への利用が温室効果ガスの排出量の抑止効果となることを認識していることが伺えます。

一方で、「あまりそう思わない」10.3%、「全くそう思わない」3.1%、「どちらともいえない」22.5%との回答となっています。【問16-4】



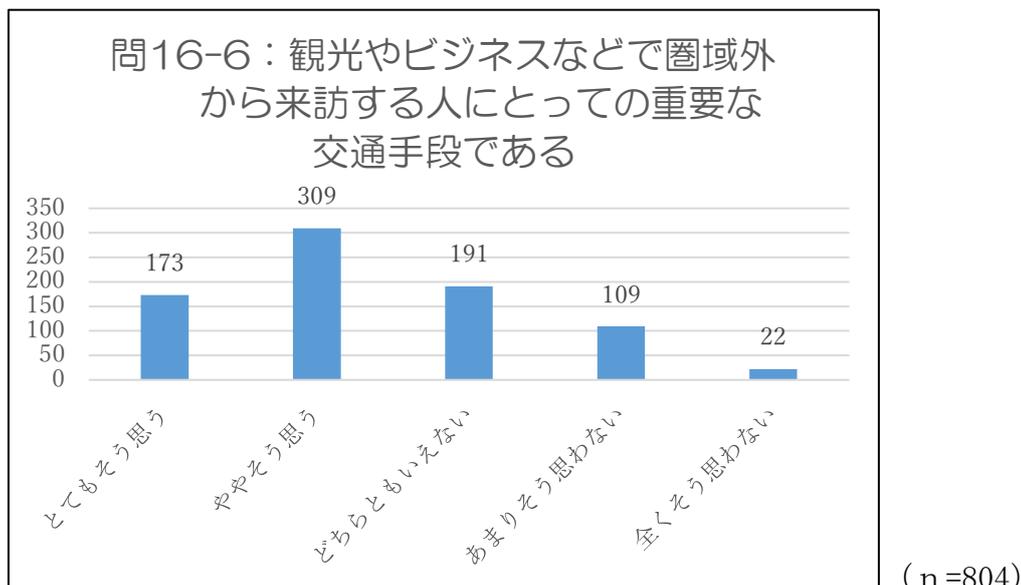
公共交通の社会的な役割の中で、最も関心の高かった項目が「高齢者や子どもにとっての重要な日常の移動手段である」との設問に対し、「とてもそう思う」が48.8%、「ややそう思う」と回答した方が40.7%と高く、公共交通の利用の有無に係らわず、多くの市民が公共交通の重要性を望んでいることがアンケート結果から伺えます。

一方で、「あまりそう思わない」1.9%、「全くそう思わない」0.7%、「どちらともいえない」7.9%との回答となっています。【問16-5】



「観光やビジネスなどで県域外から来訪する人にとっての重要な交通手段である」との設問では、「ややそう思う」と回答した方が38.4%、「とてもそう思う」21.5%に対し、「あまりそう思わない」13.6%、「全くそう思わない」

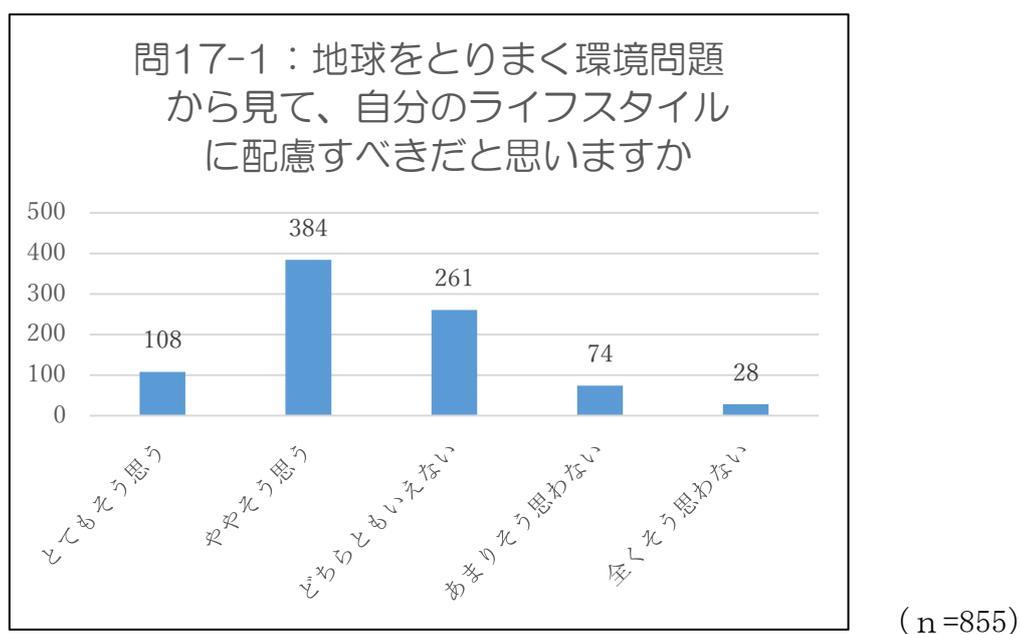
2.7%、「どちらともいえない」23.8%との回答となっています。【問16-6】



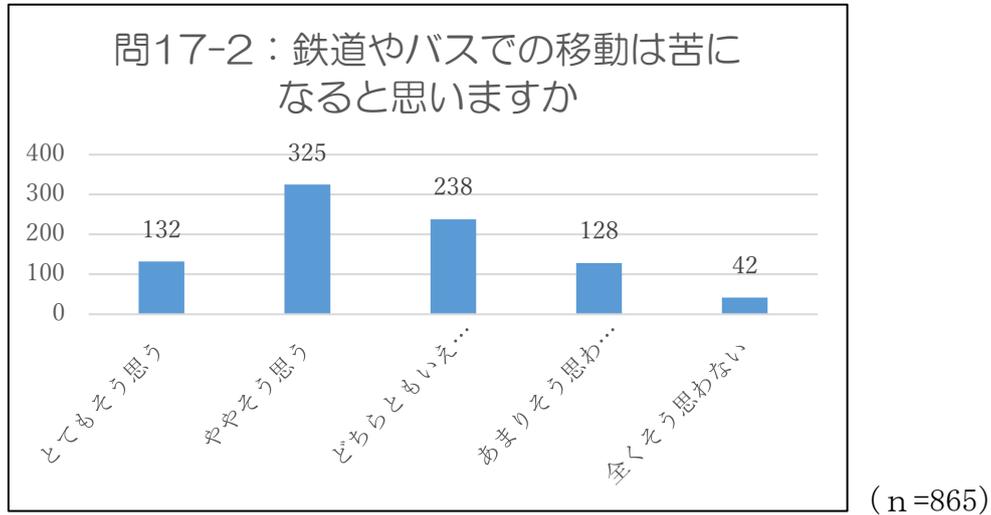
### (9) 交通に関する考え方について

前設問において公共交通の社会的な機能や役割をお聞きした後に、回答者自身の地球環境問題、公共交通の利用、自家用車に頼らない生活スタイルに関する考え方について質問をしました。

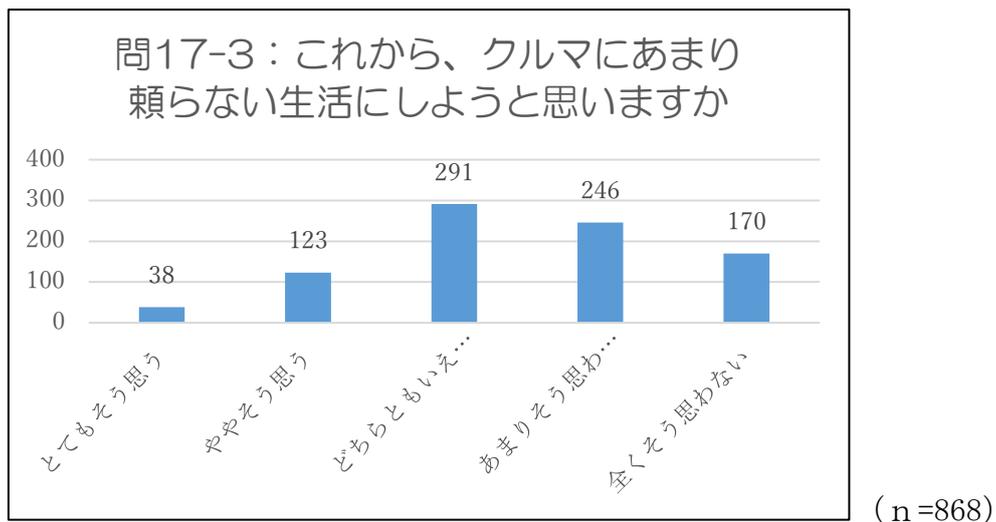
「地球をとりまく環境問題から見て、自分のライフスタイルに配慮すべきだと思いますか。」との設問では、「やや思う」と回答した方が44.9%、「とても思う」が12.6%に対し、「あまりそう思わない」8.7%、「全くそう思わない」3.3%、「どちらともいえない」30.5%となっています。【問17-1】



次に「鉄道やバスでの移動は苦になると感じますか。」との設問では、「ややそう思う」と回答した方が37.6%、「とてもそう思う」が15.3%に対し、「あまりそう思わない」14.8%、「全くそう思わない」4.8%となり、半数以上の方は「公共交通での移動は苦」と感じている結果となりました。【17-2】



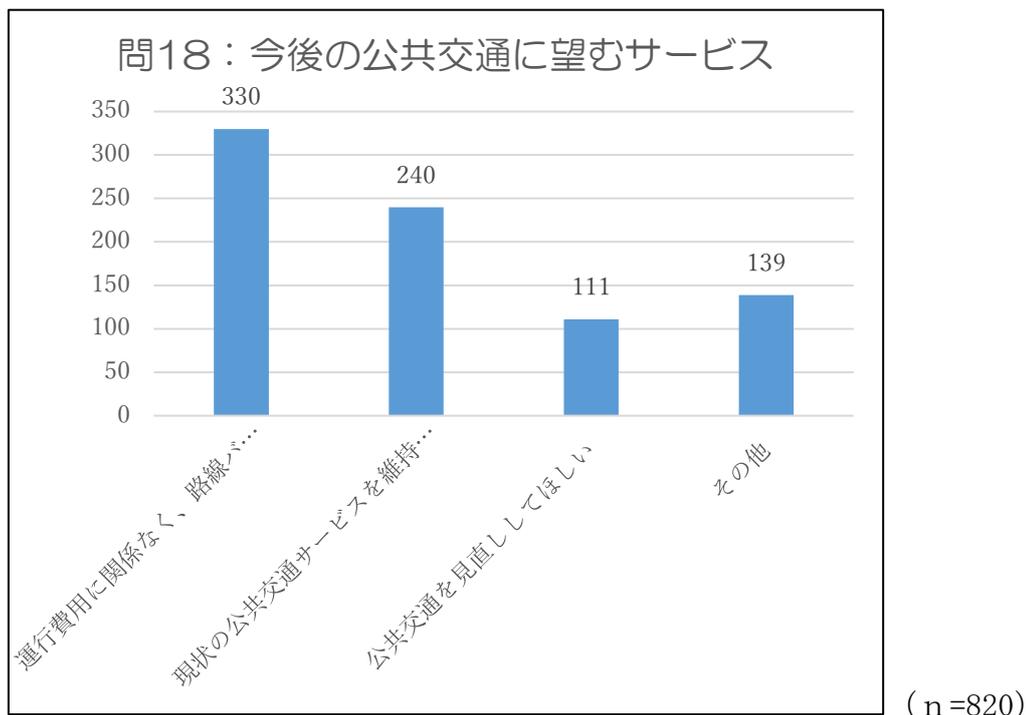
また、「これから、クルマにあまり頼らない生活にしようと思いませんか。」との設問に対し、「あまりそう思わない」28.3%、「全くそう思わない」19.6%、「とてもそう思う」が4.4%、「ややそう思う」と回答した方が14.2%となっていて、地球環境問題には関心は高いものの、「自家用車がなくては生活できない」との意識が高い傾向にあることが伺えます。【問17-3】



#### (10) 今後の公共交通について

「あなたは今後の公共交通に対しどのようなサービスを望みますか。」との設問では、「既存の公共交通サービスを更に充実してほしい」が40.2%、

「現状の公共交通サービスを維持してほしい」29.3%、「今の公共交通に代わる移動手段を確保してほしい」が13.5%となっています。【問18】



その他の自由意見を記載していただく内容では、下記の要望が寄せられています。

#### <タクシーについて>

- ・80歳以上はタクシー無料、利用は週2回までとする。
- ・高齢化に対してどあ宅やタクシー補助券などのサービスを充実してほしい。
- ・高齢者が通院する場合、移動に時間がかかれば体の負担は大。タクシー補助券の発行には、もう少しアイデアが必要。
- ・移動手段を持たない交通弱者に対しタクシー券を発行してほしい。
- ・空席ばかりのシティライナー、おうかがい市バス、市営無料バスを全廃し、交通弱者にタクシー補助券を発行する方が市民満足度の向上に繋がる。
- ・年寄りの運転が危険なのでバスやタクシーを無料にして免許返納を促してほしい。
- ・便利な交通手段があることを周知が必要。
- ・足が不自由な人のために介護タクシーの利用の補助をしてほしい。

#### <運転免許証の返納について>

- ・運転免許返納後を考える時、移動手段の多様性が欲しい。

- ・免許証返納後、多少有料でもバス乗り場を増やしてほしい。  
おうかがい市バス等増やす。
- ・免許返納者への特典、透析患者交通補助金の増額。
- ・免許を返納してしまうと買い物も大変になる。  
70歳を目前に今の市で行っている移動手段では日常生活に支障が出る。  
高齢者の移動手段をもっと考えてほしい。

#### <交通弱者へのサービスについて>

- ・高齢者・子供が使いやすいようにしてほしい。  
自分が返納しても生活しやすいようになってほしい。
- ・高齢者が公共交通を気軽に利用できる制度が必要。
- ・高齢者に対する補助・サービスを充実させてほしい。
- ・高齢者の車運転に替わる移動手段の充実を努めてほしい。  
周辺2km以内にバスを含む公共交通はありません。このような交通過疎の地域を解消すべく、市として取り組んでほしい。
- ・高齢者や学生が使いやすいようにしてほしい。
- ・買い物難民地区への配慮をお願いします。

#### <バスの運行について>

- ・現状調査の上新ルートも検討してください。
- ・工場で働いている人向けのバス停と早朝の時間があれば通勤で利用できるようになる。
- ・朝の駅周辺が送迎で混雑します。  
電車通学向けに駅までのバスの本数、区間が増えると、自家用車での送迎が減り駅周辺の混雑緩和に繋がるのではないかと思います。
- ・バス停の位置などの情報を高齢者にもっと知らせてほしい。
- ・バスの回数券サービス、補助券発行をする。
- ・バス名称を一つにした上で路線をいろいろにもうけてほしい。
- ・バスやバス停を増やしてほしい。
- ・バス路線、時刻表を配布してほしい。
- ・目的地を洗い出し、必要な時間に乗車できるバス停の確保や隣接する地域にもバスが行けるシステムを要望。
- ・自転車を持ち込めるバスとして高校生の利用を促す。
- ・バスの時間を多くしてほしい。

#### <鉄道の運行について>

- ・JRを通してほしい。
- ・羽田・成田空港への鉄道の直行。

<おうかがい市バスについて>

- ・おうかがい市バスは事前予約制ではなく、当日急に使う時もある為当日も OK にしてほしい。
- ・おうかがい市バスをもっと利用しやすいようにしてほしい。
- ・利用者の少ないバスは廃止して、どあ宅を充実させてほしい。

<ご意見・要望>

- ・車が無いと不便。
- ・駅への利用がしにくいので市内全域にバスがあっても良いと思う。  
高齢者・学生が利用しやすいと良い。  
毛里田にバスが通らないので蕪川駅行き、山前駅行きがあると良い。
- ・自家用車を持っている人は使わない。  
個人利用主体としたサービスを充実させる。
- ・市内企業に寄付を募る。
- ・市民一人当たりの負担を考えると疑問を持つが、移動手段を持たない人達には必要なもの。
- ・人口が増えて、駅周辺が充実しないとむずかしいです。
- ・スマホと太田市交通情報をリンク。
- ・スクールバスを充実させて欲しい。
- ・他の公共交通の格差を小さくして公共交通機関を充実させて欲しい。
- ・通院できるバスを増やして欲しい。
- ・電子マネーが利用できるようにしてほしい。
- ・都市部のような利便性になるなら費用が多少増えても良い。
- ・費用は気になるが、お年寄りの不便な方や学生の通学時使用しやすくなるとよい。
- ・普段車を持っていないので家の人に送迎してもらっている。  
太田駅が東武鉄道だけなので、もっと公共交通を利用するためには JR の通っている駅へのバスがあるとすごく便利に思う。  
高崎、前橋方面に行くのが不便なので JR のある駅方面に行く便利なバスが欲しい。
- ・利用の仕方を市民に周知してほしい。

(11) 公共交通に対する考え方やアイデアについて

回答者の皆様から今よりもっと公共交通の利用が増えるなど、公共交通の促進に向けたアイデアをお聞きしたところ、数多くのアイデアをいただきました。

<自由意見>

- 平日のみの運行だけではなく休日にも運行できないかご検討ください。
- どれだけ利便性を追求して公共の交通を充実させたとしても、市民が自ら利用したいと考えるような（都会のように5分～10分に1本電車やバスが来るような）快適なシステムは作れないと思う。  
それよりも現状のCO2排出や地球温暖化を削減するには、クリーンなエネルギーを使ったバスや車の走行を考えるべきであると思う。
- 車で移動できない弱者のみを対象に絞って、いつでも通院や通学に運行してくれるサービス社会の福祉としても必要不可欠なので続けてほしいと思う。  
公共交通の利用は群馬という土地柄、誰もが運転免許証を取得して自車で移動することが当たり前になっているので、この移動手段がバスや電車に変わるということも日常的にあり得ないと思う。
- 行きはコミュニティバスで通院、帰りはタクシーで買い物場所に行ってもらおう等連携が必要と思う。
- 毎日ではなく資源ごみのように曜日、ルートを表にしてわかる。
- 隣接市町のコミュニティバスに乗り継げるようにしてほしい。
- 利用頻度によりコース変更・廃止を条件に検討すべき。
- バスの路線の大幅拡充、便数の大幅増加。  
市営の電動三輪タクシーの開発はいかがでしょう。
- 行きたい所のすぐ近くで自由に乗り降りできる移動手段が欲しい。
- 年寄り足が悪いので近くのバス停にさえも行けないことを考えてください。
- 太田駅に人が集まるような環境にしてほしい。
- 30分に1本バス・電車を走らせるようにしてほしい。
- 電車での移動が非常に不便。
- 高校や駅が自宅から遠い高校生など子供のために、バスの路線や運行本数が増えたら交通事故や犯罪から守れることにもなるので、このようなことなら税金を使っていたきたい。
- バス停の場所や行き先が高齢者に分かりやすい図や文字で説明。
- りょうもう号の本数を増やしてほしい。
- 熊谷駅までのバスは電車との連絡が悪い、遅い時間帯もない。
- バスの現在地がわかるアプリによってスマホで確認できるようにする。  
無料バスの乗降場所を市民に周知する。
- バスの運行状況などを定期的に市民に配布をする（バス停、時間の確認や変更など）
- スーパーを発着所にしてバスを運行する。
- バス路線の充実と認知度アップが必要。
- 時刻表の一覧が簡単に閲覧できたらいい。

- ・多少時間がかかっても乗継なしで市内を一周し乗り降り自由な路線がほしい。
- ・JR線がないため不便。
- ・バス利用にポイント制を導入、10回利用したら1回無料。
- ・自動車産業の町なので自動車利用を否定するより公共交通と自家用車のバランスを考えたい。
- ・これから社会の高齢化が進むにつれ、否応なく社会から切り離されてしまう高齢者が増えてくると思う。  
そのような中で公共交通機関は彼らの足を支える大変重要なお役を担っていると考えている。
- ・これからも、高齢者の方々を家族の一員と思って大事にしてほしい。
- ・新田線の土日運行と毎時1便以上運行してほしい。
- ・バス代を無料とか100円とかでなく、少し上げてでも便利な方がよい。
- ・スマホアプリを利用して路線バスがどこを走行しているのかわかり、寄りのバス停が現在位置からGPSなどで分かるようになると便利だと思います。
- ・全般的にデジタルツールを活用しれ利便性と効率とコストダウンを図れたら良いと思います。
- ・各公民館にバス停があったら地域のお年寄りの方が気軽にスーパーや病院に行けるのではないかと思います。
- ・路線はシンプルにし、主要県道4本くらいにする。  
桐生方面に走らせていた毛里田線は最も需要がある路線なので一番に復活させるべき。県道館林線も需要があるはず、必ず走らせるべき。
- ・自動車産業の城下町として自動車メーカーの特色を活かした公共交通ができればよい。
- ・太田市に転入し約1年、バスについて知らなかった。  
転入の際、案内など説明があった方がよい。
- ・Maasが今より重要になってくる。
- ・太田市はSUBARUや群大キャンパスがあり自動運転の実験をやればできると思う。
- ・民間を巻き込み国の先進地事例として補助金を持ってきてやってみてはどうか。
- ・バス停からのラストワンマイルも含め検討してもらいたい。
- ・環境問題が取り上げられている中、車社会の群馬県はどのような交通手段で環境にやさしい社会を目指しているのかを市民も含め考えていかななくてはいけない。
- ・R354を走る新バスの開通（朝日バス、シャトル500等と乗り継ぎができるように）はいかがでしょうか。
- ・バス停の数、バスの本数など、都内ほど増やすのは無理だと思うが、使

用者を増やしたいと思うのなら、全て考え直さないと、群馬県でバスなどを使用する人は増えないと思います。

- バスの運行情報をもっと周知し、利用者にとって分かりやすくアピールしてほしい。
- 東武伊勢崎線と JR 両毛線の乗り継ぎを改善する。もしくは県全域をカバーするバス網の構築をお願いしたい。
- 太田駅から JR へのアクセスを改善してほしい。
- 青パトや防犯パトの小回りのきく、車を再利用して、市営バスが通らない地域をカバーする方法もあるかと考えます。
- 高齢ドライバーによる事故も増々ふえていくことが心配。  
高齢者も健康なうちは 70 才、60 才代でも仕事したい（する）ことを考えると車以外の手段で、買物や通院だけでなく、通勤もできるぐらいにしないといけないと思う。
- 通勤（通学）時間帯に乗り合いタクシーを利用できるようにする。
- 東京都内のように公共交通機関が整備されない限り車の移動はやむなし。
- バスの本数を増やす、高齢者・免許返納者の低額での運賃利用又は無料。
- 免許返納者に 3 年間有効の無料券配布。
- 有償ボランティアタクシーを増やす。
- 経費削減のためバスでは無く普通乗用車を公共交通として多く用意し、いつでも乗れる体制を構築する。
- 定年退職後は他県へ移住を考えるくらい太田市は環境が悪い。  
もっと少人数で乗れる小型のおうかがい市バス運用できる仕組みを全国初として実現してほしい。
- バス停に自転車置き場を作ったらもっと学生の利用が増える。
- バスについてこどもに教育する、本数やルートを増やす、お店とのキャンペーン。
- 公共交通の利用対象者を明確にリサーチして、その人たちがどういった目的や利用で公共交通を必要としているのか考えてほしい。
- 郊外こそバスを充実すべき。
- 電車とバスの乗り継ぎの悪さを解消して欲しい。